



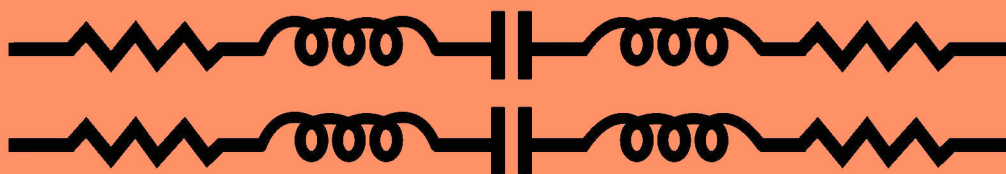
岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

創立80周年特集号

第 70 号

2024年3月発行



目 次

カラー写真			
会長挨拶	会長	久保田賢二	1
特集 岩手大学電気電子情報科会創立80周年			
創立80周年記念事業の概要			2
創立80周年に寄せて		八代 仁	3
		向川 政治	4
		永田 仁史	5
草刈功労賞受賞者紹介・選考理由			6
受賞者から	【草刈功労特別賞】	柏葉安兵衛	7
	【草刈功労賞】	齊藤 健	8
	【草刈功労賞】	柴田 隆昭	9
創立80周年記念事業準備の現場から	仙台支部長	田中 利光	10
創立80周年特別講演「私の80年 AからD、甲から乙」		齊藤 健	11
杉田慶一郎先生追悼			
ご略歴			13
杉田慶一郎先生を偲んで		藤原 民也	14
杉田先生を偲んで		鈴木 和夫	15
横山隆三先生追悼			
ご略歴			16
横山隆三先生の思い出		丹波 澄雄	17
横山先生の思い出		千葉 史	18
阿部長一相談役追悼			
ご略歴			20
元電気科会会長 阿部長一さんを偲ぶ		柏葉安兵衛	20
小野寺瑞穂元副会長・理事追悼			
ご略歴			22
小野寺瑞穂さんの思い出		柳橋 好子	22
退職された先生からの寄稿「思考の散歩道」		西山 清	23
電気電子通信コースの近況	電気電子通信コース長	高木 浩一	25
知能・メディア情報コースの近況	知能・メディア情報コース長	永田 仁史	26
草刈賞について			27
《支部だより》令和5年度東京支部報告		狩野 利之	28
令和5年度仙台支部報告		田中 利光	29
令和5年度盛岡支部報告		宮手 敏雄	30
令和5年度岩手大学電気電子情報科会総会・議事録			31
令和4年度決算書・令和5年度予算書			32
令和4～5年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿			33
令和5年度電気電子通信コース、知能・メディア情報コース教職員名簿			34
特別寄稿「赤レンガ館でラジオ歌謡を歌いました」		柴田 隆昭	35
総会添付資料・理事会議事録			37
令和5年 年表			38
岩手大学電気電子情報科会会則			40
会費納入のお願い			41
トピックス・編集後記			42
令和6年度総会のご案内			裏紙

岩手大学電気電子情報科会 創立80周年特集



籾福 寛 氏

柏葉安兵衛 氏

久保田賢二 会長

齊藤 健 氏

柴田隆昭 氏



①



②



③



④



⑤

草刈功労表彰

- ① 草刈功労特別賞 柏葉安兵衛 氏
- ② 草刈功労賞 籾福 寛 氏
- ③ 草刈功労賞 齊藤 健 氏
- ④ 草刈功労賞 柴田隆昭 氏
- ⑤ 選考委員長挨拶 立花隆一委員長

記念式典・挨拶

- ⑥ 来賓の先生方
- ⑧ 会長挨拶

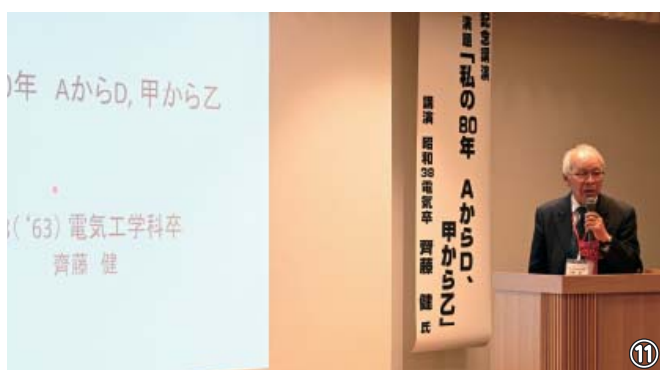
- ⑦ 祝辞 理工学部長 八代 仁先生
- ⑨ 受賞者挨拶



記念講演

- ⑩ 講師 齊藤 健氏
- ⑫ 講演会風景その2

- ⑪ 講演会風景その1
- ⑬ 講演会風景その3



祝賀会

- ⑭ 祝辞 電気電子通信コース長代理 向川政治先生
- ⑮ 主催者挨拶 田中利光仙台支部長
- ⑯ スピーチ 宮手敏雄盛岡支部長
- ⑰ スピーチ 吉澤和弘氏(S54情報)
- ⑱ 同袍寮歌斉唱
- ⑲ 乾杯 立花隆一副会長
- ⑳ スピーチ 狩野利之東京支部長
- ㉑ 昭和38・39年卒業の皆さん



集合写真



岩手大学電気電子情報科会80周年記念式典・祝賀会
令和5年6月17日 於 仙台ガーデンパルス

後列左から

柏葉安宏 (H09電電)、大坊真洋 (H11電情博)、木村彰男 (H03情報)、菅原利一 (S55電気)、戸羽幸江 (H12電電)、加藤一容 (S55電気)、熊田克俊 (S51電気)、吉沢和弘 (S54情報)、佐々木幹志 (S52電気)、下田嘉美雄 (S47電子)、澤藤隆一 (S47電気)、佐藤 晃 (S45電子)、寺井正行 (S41電気)、佐藤 實 (S44電気)、石井幸一 (S39電気)、伊藤 奨 (S39電気)、佐藤隆三 (S38電気)、金田重憲 (S48電気)、田代良二 (S54電気)

中列左から

三浦友規 (H16電電修)、加藤 毅 (H04電子)、中山靖茂 (H04電気)、長田 洋 (S62電気)、川上公司 (S55電気)、加藤雅和 (S49電気)、大森彬生 (S38電気)、遠藤博美 (S38電気)、及川二千朗 (S38電気)、浦山郁夫 (S24工専)、古村 光 (S34電気)、最上清治郎 (S38電気)、岡本康之 (S38電気)、新沼 崇 (H18電電)、佐藤 匡 (S41電気)、伊東寿枝 (H01電子)、大羽澤仁志 (H02電気)、安保 進 (S45電子)、菅野 丘 (S63情報)、恒川佳隆 (S55電気)、高橋克幸 (H21電電修)

前列左から

岡 英夫 (S48電子修)、田中利光 (S53電気)、宮手敏雄 (S47電気)、藤原民也 (顧問)、向川政治 (電気電子通信コース長代理)、柴田隆昭 (S37電気)、旗福 寛 (S38電気)、久保田賢二 (S42電気)、柏葉安兵衛 (S38電気)、齋藤 健 (S38電気)、八代 仁 (理工学部長)、永田仁史 (知能・メディア情報コース長)、柳橋好子 (S45電子)、立花龍一 (S61情報)、狩野利之 (S61電子)、石母田正則 (S57電気)

ご 挨拶

会長 久保田賢二（昭和42年電気卒）



会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本会の活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに会誌「きたかみ」70号創立80周年特集号をお届けできますこと、嬉しく思います。

東日本大震災から本年3月11日で13年になります。この間各地で地震や豪雨、河川氾濫、大雪等々災害が起こり、本年は元日から能登半島地震による甚大な被害が発生しております。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げ、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

本会は2022年1月1日に創立80年を迎え、新型コロナウイルス感染拡大防止のために延期して参りました80周年記念式典・祝賀会は昨年6月17日、仙台支部のご協力の下に仙台ガーデンパレスで総会に引き続いて開催、そのリモートライブ配信も東京支部のサポートの下に実施されました。お世話頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。なお、創立三十周年記念アルバムOfYear表によれば、本会発会の地は盛岡ではなく、仙台駅前アポロとのことです。

さて、母校の修了式・卒業式は3月23日とのこと、本年も新たな正会員百数十名を迎えます。真に喜ばしいことです。新正会員の皆さんに祝意を表し、ご活躍とご多幸を祈念致します。

次に残念な事ではありますが、恩師杉田慶一郎先生（特別会員）は2023年2月16日、恩師横山隆三先生（特別会員）は5月6日にご逝去との報に接しました。杉田先生は1974年4月に着任以来定年の1993年3月まで、横山先生は1972年4月に着任以来定年の2005年3月まで、学生の教育に情熱を注がれました。また阿部長一相談役（昭和19年工専卒、昭和31年電気卒）は2023年2月18日、小野寺瑞穂理事（昭和29年電気卒）は5月4日にご逝去されました。阿部相談役、小野寺理事ともに卒業以来役員を歴任され、阿部相談役は1967年から1970年まで会長を、小野寺理事は1985年から1999年まで長い間副会長を務める等多大の貢献をなされ、阿部氏は創立70周年、小野寺氏は創立75周年の記念式典において草刈功労賞を受賞されました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、本会の経費は母校入学時に納入頂く入会費と、卒業後10年毎に正会員各位に納入頂く会費（過去10年分の年会費）によって賄われております。本年は2013年度（平成26年3月）までに正会員となられた方全員に、会費1万円を納入して頂く年になっております。対象の方に振込用紙を同封致しますので、納入方よろしくお願い致します。

終わりに、皆様の一層のご健勝を祈念して挨拶と致します。

創立80周年記念事業の概要

岩手大学電気電子情報科会 創立80周年記念事業の概要

1. 記念式典（功労者の表彰：草刈功労賞の贈呈）
2. 記念祝賀会（祝宴）
3. 「きたかみ」（70号）80周年記念特集号の発行

創立80周年記念事業の経緯

平成30年度第2回理事会（平成30年8月25日）で「80周年に向けて準備を始めてはどうか」との提言があり、第3回理事会（平成31年1月26日）で協議し、「令和3年6月の総会（開催予定地盛岡）当日、75周年事業に倣って記念式典等を開催、実行委員は理事会メンバー全員」とすることが了承された。

その後令和2年1月からの新型コロナウイルス感染拡大により大人数の集会が困難となり同年6月の仙台での総会は中止、令和3年度の総会候補地が仙台となった。仙台支部の了承の下に第1回実行委員会（令和2年3月13日）において、「令和3年6月に仙台で総会に引き続き記念式典・祝賀会を行う」ことに決定した。しかしながらその後もコロナ禍のために記念式典等の実施はできず、ようやく令和5年（2023年）6月17日の開催に至った。

当日は仙台ガーデンパレス4階「羽衣の間」において午後1時30分より総会、引き続いて式典を行い本科会の発展に功績のあった方々を表彰（草刈功労賞の贈呈）、次いで記念講演会、その後会場を2階「鳳凰の間」に移して記念撮影、祝賀会（祝宴）を開催することにした。

また、理事会構成員全員を実行委員とし、理工学部長、一祐会会長、学科のコース長の先生、本会顧問をご招待することとし、草刈功労賞選考委員長は立花龍一副会長に依頼した。

創立 80 周年によせて

理工学部長

八 代 仁



電気電子情報科会におかれましては創立 80 周年を迎えられましたことに、心よりお祝いを申し上げます。昭和 14 年 7 月にスタートした盛岡高等工業学校（高工）には、本科としてまず機械科、工作機械科、電気科、採鉱科、冶金科が置かれました。以来、電気科は電子、情報という分野にも守備範囲を広げながら大きく発展してきました。戦時下ゆえ、高工としての最初の卒業式は昭和 16 年 12 月だったということですから、第一期生の実質的な修業期間は 2 年足らずだったようです。翌 17 年に同窓会が設立されて以来、80 年の年月が経過したことになります。ちなみに私は昭和 34 年に開設された応用化学科（現、化学・生命理工学科）に務めておりますから、ちょうど 20 年後輩ということになります。この差だけは永遠に埋めようがありません。

さて、高工はその後盛岡工業専門学校時代を経て、昭和 24 年に新制大学の工学部として再出発することになりますが、その構成は 4 学科（機械工学科・電気工学科・鉱山工学科・金属工学科）定員 120 名でした。昭和 41 年に電子工学科、昭和 50 年に情報工学科が設置されなど 10 学科にまで増えた工学部は最大で 490 名まで定員を増やしました。その後は大括り化が進み、平成 28 年の改組では、理工学部 3 学科体制（定員 440 名）となって今日に至っています。なお令和 7 年には次の改組が控えていますが、学科は 1 学科に括られる予定です。

次の改組の目玉は、情報系教育研究の強化

と半導体人材育成強化にあり、いずれも電気電子情報科会の守備範囲とするところです。現在、電気電子通信コースと知能・情報メディアコースを傘下とする電気電子情報科会は、改組後に電気電子・情報通信コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コースの 3 コースを抱えることになる見込みです。卒業生の数も増加が見込まれますので、電気電子情報科会は益々発展が期待されます。

戦後の昭和時代を象徴する工業製品が自動車であるとする、令和を象徴する工業製品はスマートフォンに代表される情報通信機器といえるかもしれません。いま世の中では生成系 AI が話題になっていますが、言語や画像の認識、翻訳、創造的出力など、私たちのライフスタイルを一変させる可能性を秘めたものが次々と登場しています。情報分野におけるイノベーションはそのまま産業革命につながるインパクトを持っています。もちろん、これらを支える半導体が「産業のコメ」としてますます重要になることも間違いありません。さらに、地球環境の危機感から、一見成熟したかにみえるエネルギー関連分野でも、革新的なイノベーションが求められています。電気というエネルギー形態の果たすべき役割はますます重要になるに違いありません。

このように電気科の守備範囲は、21 世紀を大きく左右する最重要ポジションといっても過言ではないでしょう。会員の皆様のますますのご活躍を祈念申し上げる次第です。

創立80周年に寄せて

創立 80 周年によせて

電気電子通信コース長代理

向 川 政 治



電気電子情報科会創立 80 周年記念を迎えましたこと、会員の皆様にはお慶び申し上げます。ここ数年間のコロナ過で記念式典が延びましたが、無事に開催される運びとなり安堵しております。記念式典の日は、高木電気コース長は海外逃亡のため出席できないことになりましたので、私が電気コース長代理として参加させていただきました。

当日の記念式典では永田先生が祝辞を述べられ、祝賀会で私が一言お話しさせていただきましたが、記念式典のときに引き続き科会の活動に参加する人や会費収入の減少が話題になっていたので、私の話では冒頭でこの話をさせていただきました。

あくまで私の私見(偏見)ですが、古い卒業生からの協力を求めるよりも、新入会員に訴えかけるのがよいように思っています。在学中、学生は電気電子情報科会の存在をほとんどが知りません。これはコロナ前も同じでしたが、以前は、卒業・終了年次の2月になると新入会員歓迎会が行われており、ここで初めて科会の存在を知ることになりました。ただし、これも何も言わずに放っておくと、得体が知れないせいか、行こうとはしません。そこで、「とりあえず行けば寿司が食える。ビールもある。だから行け。」と言うと、それならと出かけていきます。その後歓迎会が終わると、余った寿司等を研究室に持って帰り、「先生の言うことはようやくわかりました」と私に話しつつ、飲み食いをしていました。すなわち、対学生には、エサをもってして訴求することが有効な策である、という経験則が成り立ちます。今後も卒業・終了年次での新入会員歓迎会は、豪勢に行っていなければと思います。

コロナ過では大学内でも様々な場面で多くの制約が多くありました。令和元年度の私がコー

ス長だった年には、12月頃までは遠方の武漢での出来事であったので、対岸の火事と高をくくっておりましたが、見る見るうちに日本まで伝搬してきて、私のコース長としての最後の仕事がコロナ対策であったことはやるせないものがありました。しかし、今年度からいろいろな行事が再開され始めました。電気コースで再開されたことの1つは、関東方面の2泊3日の工場見学旅行です。コロナ過でも県内の工場見学は細々と実施できておりましたが、関東方面の会社も大学もやれる状況ではないとの判断でした。今年は3年担任の佐藤先生と2年担任の村田先生の引率で9月に実施できました。今後もこれは続いていきますので、電気電子情報科会の皆様にはご協力をお願い申し上げます。また、もし可能でしたら、(科会の宣伝をしつつ)お弁当の一つも出していただけるととても助かります。

もう一つは、電気コースで恒例であったソフトボール大会があります。以前は5月に行われておりましたが、5類移行が5月でしたので、少し遅らせることとしましたが、6月は雨が降る、7月は期末試験がある、8月は暑くて熱闘甲子園化するのでこれは避けたい、10月は後期の講義が始まる、ということで9月が選ばれ、9月28日(木)の13:00から岩手大学中央グラウンドで開催することになりました。高木・高橋研が幹事研究室となって試合のルールも厳密に決め、各研究室では自主トレを行っていましたが、普段の行いがよくなかったせいか、当日は雨が降り中止となりました。これは次年度への宿題です。

今後も教職員一同、いっそうよい大学になるよう努力していく所存です。今後とも、電気コースおよび情報コースの教育・研究活動等に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

創立 80 周年によせて

知能・メディア情報コース長

永 田 仁 史



科会創立 80 周年おめでとうございます。6 月 17 日に仙台で開催の 80 周年記念式典・祝賀会に出席させていただきました。会場となったホテルは仙台駅の東口にありましたが、周辺はしばらく見ぬ間に全く新しい街に変貌しており、世間と自身を経過した年月に思い至り、いささか悄然とした次第です。それはともかく、式典は盛大に執り行われ、楽しく過ごさせていただきました。

大学では、ここ数年のコロナの猛威により、講義遠隔化の他、種々の行事中止・簡素化など、対策に振り回されてきましたが、本年度はその影響も下火となり、ようやく本来の活動ができるようになってきました。コロナパンデミックがこのまま過去のものになることを願うばかりです。猛威といえ、本年あたりから始まった生成 AI の爆発的な広がりからも伺われるように、人工知能を中心とする情報技術が世の中を大きく変えつつあります。また、小学校からのプログラミング教育必修化にも表れているとおり、情報を扱える人材の強化が急務になっています。本学でも情報分野の重点化に合わせた次

なる改組が検討されており、その結果によっては、深刻化する少子化の中での本学の行方も大きく変化する可能性があります。情報技術に起因する大きな変革期と呼べるこの時期、これまでの時代を乗り切って多くの経験と見識を備えた先輩諸子のご意見も伺ってお力添えをいただけたらと思います。

さて、今年、6 月の 80 周年記念式典に続き、10 月の科会東京支部大会にも参加させていただきました。東京支部大会は 5 年前にも参加しましたが、そのときと変わらぬ、皆さん活発で楽しい会でした。科会の行事では祝宴のトリを飾って伝統歌の演奏・合唱があります。この歌は、科会の伝統を象徴するものといえ、また、本学を離れた卒業生に拠り所を知らせる燈火のようでもあります。このような伝統を守って科会の歴史が刻まれてきましたのも、皆様方をはじめとする先輩諸氏のご尽力の賜と拝察いたします。科会の皆様におかれましては、ご健勝と、貴会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



集合写真



岩手大学電気電子情報科会80周年記念式典・祝賀会
令和5年6月17日 於 仙台ガーデンパレス

後列左から

柏葉安宏 (H09電電)、大坊真洋 (H11電情博)、木村彰男 (H03情報)、菅原利一 (S55電気)、戸羽幸江 (H12電電)、加藤一容 (S55電気)、熊田克俊 (S51電気)、吉沢和弘 (S54情報)、佐々木幹志 (S52電気)、下田喜美雄 (S47電子)、澤藤隆一 (S47電気)、佐藤 晃 (S45電子)、寺井正行 (S41電気)、佐藤 實 (S44電気)、石井幸一 (S39電気)、伊藤 奨 (S39電気)、佐藤隆三 (S38電気)、金田重憲 (S48電気)、田代良二 (S54電気)

中列左から

三浦友規 (H16電電修)、加藤 毅 (H04電子)、中山靖茂 (H04電気)、長田 洋 (S62電気)、川上公司 (S55電気)、加藤雅和 (S49電気)、大森彬生 (S38電気)、遠藤博美 (S38電気)、及川二千朗 (S38電気)、浦山郁夫 (S24工専)、古村 光 (S34電気)、最上清治郎 (S38電気)、岡本康之 (S38電気)、新沼 崇 (H18電電)、佐藤 匡 (S41電気)、伊東寿枝 (H01電子)、大羽澤仁志 (H02電気)、安保 進 (S45電子)、菅野 丘 (S63情報)、恒川佳隆 (S55電気)、高橋克幸 (H21電電修)

前列左から

岡 英夫 (S48電子修)、田中利光 (S53電気)、宮手敏雄 (S47電気)、藤原民也 (顧問)、向川政治 (電気電子通信コース長代理)、柴田隆昭 (S37電気)、籾福 寛 (S38電気)、久保田賢二 (S42電気)、柏葉安兵衛 (S38電気)、齊藤 健 (S38電気)、八代 仁 (理工学部長)、永田仁史 (知能・メディア情報コース長)、柳橋好子 (S45電子)、立花龍一 (S61情報)、狩野利之 (S61電子)、石母田正則 (S57電気)

想 出

柏 葉 安兵衛（昭和 38 年電気卒）



昨年 6 月 17 日に仙台で開催された「岩手大学電気電子情報科会創立 80 周年記念式典」で、「草刈功労特別賞」をいただきました。身に余る光栄であり、皆様にお礼申し上げます。

「草刈功労賞」は、学生対象の「草刈賞」と異なり、電気電子情報科会の創設、維持、発展に寄与した会員に感謝の意を表すために、科会創立 70 周年を機に創設された賞です。これは、創立 70 周年ともなると、設立に関わった方々は勿論、その後の維持、発展に努めた先輩方も高齢になり、この機会を逃すと感謝の気持ちをお伝えする機会を失うとの思いから、「創立 70 周年記念事業実行委員会」の中に、太田原功先生（昭和 30 年電気卒）を委員長とする「選考委員会」を立ち上げ、そこで選考基準を定めて選考を行い、東京で行われた創立 70 周年記念式典で贈呈することが出来ました。以後 5 年毎に行うこととしています。

私が電気科会（当時の名称）に関わったのは昭和 43 年に電子工学科に着任してからで、7 月に草刈先生がお亡くなりになって工学部葬後の様々な追悼事業のお手伝いをしたことを思い出します。また昭和 45 年頃、しばらく途絶えていた会誌「きたかみ」の発刊再開について、一戸英敏先生（昭和 17 年電気卒）のお手伝いをしたことも思い出します。会誌のほか、名簿その他の出版物の発行、発送などに関わる仕事は大変な量で、私はいつも久保田先生（昭和 42 年電気卒、現会長）を非常に煩わしていました。

そうこうしているうちに、情報工学科の卒業生が出るようになると、電気科会として一緒に活動していくには、「電気科会」の名称を変え

なければいけないのではないかの声が出て、太田原先生を中心にして検討した結果、名称を現在のものに変更しました。一方、会員の数が増えると事務量が増えて、これを学科内の卒業生が消化するには非常に困難になっていました。このため、外部のベテラン卒業生に事務局に加わっていただき、中心となって事務を手伝ってもらう体制ができました。最初は歳弘健氏（昭和 33 年電気卒）、2 代目は現在の柳橋好子さん（昭和 45 年電子卒）です。これで学科内卒業生の負担が大幅に減りました。これも太田原先生の主導によるものです。

私はいろいろなことに関わってきましたが、科会のために何かをして貢献したという感じが全くしません。この度の受賞は、その意味で身に余る賞でした。

少子化問題は確実に大学にも影響し、学部を超えて或は他大学を巻き込んだ改組、改変が起こると思われます。そして、同窓会にも大きな影響を及ぼすことでしょう。学科の増設や学生定員の臨時増募時代を経験してきた身にとっては真逆の問題であり、非常に困難なことだと感じます。

これからの様々な困難に打ち勝って、電気電子情報科会が継続、発展していくことを心から祈っています。



受賞者から

科会活動とのかかわり

齊藤 健（昭和38年電気卒）



昭和38年に電電公社へ入り、約10年間は旭川から広島の大都市でそれぞれ2年間ほどの生活をしていました。この間、仕事のことや家庭を持つことなどで余裕を持てずまた、近くに

同窓の方がおられるかなどの情報もなく全く科会活動にかかわる機会に恵まれませんでした。

その後東京本社勤務となり、仕事のうえでの時間的余裕もでき科会の会合・支部活動の手伝いなどができるようになり、同窓会の楽しさ・有益性などを実感しました。その後また地方勤務の時期などがあり同窓会活動への制約を受けましたが、平成2年春から仙台で生活することとなり科会の会合へ参加する機会が多くなりました。当時の仙台支部には科会創始者のお一人の阿部大先輩はじめ多くの先輩諸兄がおられ会合では多くの事を学ぶことができました。そしてこのような同窓会活動を次の世代にも確実に

伝えていかなければと思うようになりました。

このような私の経験に鑑みますと、同窓会活動の活性化は社会的な経験が豊かになる40歳代からの会員の関与の在り方が大きなウエイトを占めているように思われます。

ネットワークのデジタル化で情報伝達の手段は多様化されましたが、個人情報の扱いに一層の配慮が必要な時代になり反って科会情報の伝達に支障をきたしている面が多くなってきてます。このような事態を改善できるのは昔ながらの“口コミ”による方法がベターだと考えます。そして彼らがその中核を担っていってくれればと願うのです。

大学の評価尺度に同窓会活動が1項目として取り上げられているようですが、私にとってはそのような評価のあるなしにかかわらず同窓会は重要なイベントです。

今後も積極的に関わっていければと願っています。



私の学生時代のささやかな行動と草刈功労賞授賞

柴田 隆 昭（昭和 37 年電気卒）



私は戦争遺児で残念ながら兄弟がいない。そういう事情からか友人を求める傾向が強いのかも知れない。と同時に「この子供は世話好きだなあ」と言われて育って来た過去がある。

高校時代はそのナリ(身長)と押しと声のデカさで応援委員会の副委員長を拝命していた。岩大に入学したての頃、自治会室なるものを覗いたら一年先輩の大井委員長から役員に祀り上げられ名古屋大学で開かれた「全国理工系学生自治会連合」主催のゼミナールに金属工学科のSさん共々に岩手大学の代表として行くこととなった。その時のテーマが《科学技術者の社会的責任》という重たいテーマであった。会合の中でそんな重大な中身を話し合うなどとは微塵にも考えずにいたので、田舎の地方学生にとってはとても新鮮で魅力的なテーマであった。そしてこの事がその後の研究開発者としての頭に降りかかってきたことは間違いない。

1960年6月15日、樺 美智子さんがお亡くなりになった。私はこのニュースを同袍寮のT

V室で拝見し、身体が硬直し次にはワナワナと振るえたことを昨日の事のように良く覚えている。この頃、同袍寮では中村一夫寮長(故人)や機械工学科のT君らで、政治談議が盛んであった。副寮長の小生も加わるべきであったがこの方面に不得手な小生はその議論に加わらなかった。いわゆる「60年安保反対運動」では精々岩手公園までデモ行進する程度であり、勿論ゲバ棒は振るったことは無い。

昭和37年3月、我々電気10回生は43名が卒業することとなったが、就職担当の大内先生は「柴田君は学生運動をやったからなあ」と仰った。従って自分での就職活動で一般企業への就職は無理だと思いこんでいたので、原子燃料公社なる政府関係機関を紹介して頂き受験し就職することが出来た。某建設会社に決まったB君がわざわざ「俺は最後にN建設に決まったが、柴田お前さんは42番目に決まったそうだな！」と教えてくれた。以上、学生時代の振舞いを二三述べ、私のような問題児(学生)であってもその後の行動次第によっては【草刈功労賞(振興)】を授賞できることを言いたかっただけである。



創立80周年記念事業準備の現場から

創立 80 周年記念事業準備の現場から

仙台支部長 田 中 利 光 (昭和 53 年電気卒)

やっとこの日を迎えることができました。

岩手大学電気電子情報科会が令和4年(2022年)1月1日に創立80周年を迎えることを記念し、当初は令和3年(2021年)6月に記念式典を開催することとしていました。準備のための実行委員会において開催場所を仙台でということにしたものの、新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)感染拡大防止の観点から2度の延期を強いられ、その間開催できるのかできないのかで準備側のモチベーションは上がりたり下がったりでした。令和5年(2023年)に入ってから、今度こそ開催できるのかとやきもきしていましたが、5月に新型コロナが5類感染症となったこともあり、ようやく令和5年6月27日に開催の運びとなりました。

実行委員会では、創立80周年の日から1年半も経っての記念式典に創立80周年と銘打っても良いのだろうかとの意見もありましたが、2020年に開催予定の東京オリンピックも1年延期となったものの東京2020と銘打って開催した例もあり、良しとしようということに収まりました。

この記念事業において仙台支部は会場選定、会場準備、祝賀会運営を担いました。できるだけ多くの会員に参加してもらいたいとの思いから、会場を東京や盛岡などからも日帰り可能なJR仙台駅に近い仙台ガーデンパレスとし、祝賀会終了時間をその後の帰宅が容易なよう19時としました。また、都合により仙台まで来ることができない会員のために、東京支部の協力に

よるライブ配信も行うこととしました。

当日のプログラムは、①仙台支部総会、②総会、③記念式典、④記念講演、⑤記念写真撮影、⑥祝賀会です。

開催日当日の11時、準備運営スタッフが仙台ガーデンパレスロビーに集合。いよいよです。会長訓示の後、それぞれの持ち場に分かれて開催準備を行いました。いろいろなハプニングも余興のうち。祝賀会まで無事終わり、後始末の後スタッフも解散となりました。

本部、東京支部、仙台支部のスタッフの方々大変お疲れ様でした。また、お忙しい中、式典にご出席くださった方々まことにありがとうございます。出席者が多ければ多いほどスタッフのモチベーションは上がります。今後とも、科会のこのようなイベントへのご協力を引き続きお願いします。



【準備運営スタッフ集合】



【創立80周年記念式典会場】



【総会・式典会場】

私の80年 AからD、甲から乙

齊 藤 健 (昭和 38 年電気卒)



私は第一回生の卒業した1941年の生まれで科会の年齢とほぼ同年齢です。

創立80周年記念総会でなにか話せということでした。80年間平平凡々と過ごしてきた身として特段改めて話せることも無いのですが、大学を出てから電気通

信関係の分野で二つの企業に籍を置き、アナログからデジタル技術への大きな変化を経験しました。そのような経験のなかで比較的よく印象に残っていることなどを紹介し勤めを果たそうというわけで表題のタイトルとしました。

当時の電気科は3コースで強電2コース、弱電1コースでした。私は中学生の頃から興味を持っていた無線に惹かれ弱電のCコースを選択しました。

実家は盛岡から約60KM南の金ヶ崎町です。通学が可能でしたが時間のロスや体の負担を考え同袍寮へ入寮しました。同袍寮は工学部構内にあり1室6人が寝食を共に過ごす場でありました。

4年間の同袍寮での経験は大変貴重なものでした。同室の6人は工学部・農学部・学芸学部で、1年から4年次生まで年齢構成も多彩でした。物の見方・考え方の多様性を勉強するには恵まれた場所と時間を過ごすことができ、教室での工学の勉強と同時に社会生活の基礎と知恵を学ぶ社会学・人間学の勉強と実践の場となり大学生活での大きな収穫であったと考えています。

就職はご担当の藤田先生から「君は半行政的なことが向いているようだから電電公社はどうか」というアドバイスを受けました。聞きなれない“公社”という組織はどんなところも分からなく不安もありました。しかし経験豊かな先生からのアドバイスであり、電電公社に入社しました。当時の電話事情は電話開通申し込みから開通までかなりの日数と多額の費用が必要で、この状態の早急な改善が望まれていました。その為1952年電電公社（以下NTT）が設立され、電気通信省の業務が移管されました。岩手大学に採用の話があったのは、NTTは発足と同時に数次にわたる電信電話拡充5カ年計画を策定

し、改善に取り組み第3次計画以降さらにスピードアップするため技術者の大幅な増強が必要な時期に来ていたという背景があったようです。

当時NTTの技術グループは大きく分けて6グループに分かれていました。私は無線分野を選択しました。マイクロエーブが長距離市外回線で重要な役割を果たしさらに全国のTV放送ネットワークの主体をなして、その後の展開がどうなるのか期待感が大きなものでした。またこの年の秋、米国ケネディ大統領の暗殺シーンが日米初の宇宙通信衛星実験通信により銀座の街頭に設置されたTVに映しだされました。勤労感謝の日で友人と銀座へ遊びに行っていた私はその光景に驚いたと同時に無線を専門分野に選んだことに満足感を覚えました。

入社からおおむね10年ほどの間は旭川から広島までの複数の現場事業所、管理機関などで多くの経験をしました。私はこの時期を転勤公社時代と言っています。各地での在任期間は概ね2年間の短い時間でした。仕事の内容も転勤ごとに大幅に変わり、各地の気候風土・習慣も違い大変良い勉強ができたものと思っております。また多くの素晴らしい友人に恵まれました。これらの事は後年仕事をしていくうえでの大きな財産となりました。

1974年に本社へ転勤になりました。この頃はNTTの数次にわたる5カ年計画の進捗もあり電気通信事情は大きく改善され量の拡大から質の向上に取り組む時期となっていました。本社での当面の仕事は、新技術導入・サービスの提供に伴う設備の運用・保守体制の構築などでした。また自動車電話サービス開始に向けての準備も本格的に始められた時期でした。

やがて郵政省電波管理局対応の窓口部門を担当することになりましたが、行政サイドからのものの見方・考え方を知るうえで貴重な体験をしました。また社内外に多くの友人を得る機会ともなり彼らから多くの事を学ぶことができました。

やがて電話局で2年間ほど電報・電話サービスの最前線で直接お客様と地域の皆さんとの接する機会に恵まれました。商工会議所やロータリークラブのメンバーとなることもできNTT以外の文化を知ることができまさに貴重な体験でした。

NTTは多様な新サービスの展開・設備の高度化を目指すために1975年に研究3重点項目として1.超LSI、2.光ファイバー、3.デジタル信号処理のテーマを明確にし将来のネットワークのデジタル化に向けて進みだしました。

これらの研究成果をもとにしてNTTは1981年に通信距離・時間にかかわらず、情報量によって課金するという新しいデジタルネットワーク(Integrated Network Service INS)構想を打ち出しました。

この構想は光ファイバー方式の完成と1981年にNTTのトップが民間出身の総裁に変わることによって急ピッチで具体化することになりました。当時私は無線課長をしていたのですが、無線における長距離伝送用デジタル方式の導入を断念せざるを得ないことなどもあり忸怩たるものがありました。しかし冷静に判断すれば当然の成り行きだったと言えます。

その後、国の行政改革の方針によりNTTは民営化され、組織も大きく変わり私は新設の高度通信事業部で移動体電話部長を務めることになりました。当時、移動体電話は自動車電話・船舶電話がメインですがすべてアナログ方式で現在のデジタル方式の携帯電話とは大きく異なり料金も高額で専らビジネスユースでした。しかし各地からのサービス開始要望は多く、自動車電話部隊の活気にあふれた職場は楽しいものでした。

NTTの民営化と同時に電気通信分野での競争が始まり新生日本電信電話株式会社もその競争に伍していくために大幅な体制見直し・スリム化を早急に進めることとなりました。

私は暫くは自動車電話関連の仕事で頑張れるものと思っていましたが、突然青森支社長を命ぜられ数年ぶりでNTTサービス全般にかかわることとなりました。当然地域社会との対応が大きなテーマとなるのですが数年前に経験した電話局時代と大きく異なるのは、競争体制構築のための組織のスリム化という難題がありました。規模が小さいといえ電話局が無くなるということは地域にとっては大きな問題になります。幸い予定していた電話局の廃止も比較的スムーズに進めることができました社員の移動なども関係者の理解・協力を得て無事終わらせることが出来ホットしたことでした。

この時期の諸々は忘れることができないことが多いのですが、なかでも当時の国の施策に関係したコンピューター技術者の育成施設の立ち上げは特筆できるものでした。その施設、青森コンピュータカレッジは毎年優秀な卒業生を出していると聞いてお世話になった青森の皆さんへのお礼替わりになればと思っています。

青森の新体制への移行などが終わり次はど

んな仕事出来るか楽しみにしていましたら、NTTをやめて他の会社へ就職しないかという話が飛び込んで来ました。そのような機会があれば積極的に対応しようと数年前から考えていましたので、27年間過ごしたNTTを退職し、仙台に本社を置く大和電設工業(株)(KDD)へ就職しました(1990年)。

DDKは電気通信設備・電気設備の設備工事とソフトウェア開発を手掛けていて、NTTの設備工事がメインでした。私もNTT時代は工事の発注者(甲)の立場でしたが今度は受注者(乙)の立場で動くことになったのでした。

民営化され競争市場に置かれたNTTは各方面でのコストダウンが喫緊の課題でした。また急速にネットワークを光回線の拡大、交換設備のデジタル化、自動車電話拡大等等で高度化していく時期でした。

当時のDDKは通信ネットワークの中で、電話回線の電話局外設備と利用者宅内の設備を扱うことしかできなかったため、デジタル化への対応は問題がありましたので、新時代に対応できる施工力を高める技術取得体制の整備と工事品質を一段と高める取り組みが急がれました。施工力を高めるため、同業者との提携を進め、品質向上対策としては国際的品質マネジメントシステムISOの認証取得を進め、施工範囲の拡大も進み、ISOは電気通信工事業界内では他社に先駆け1998年全社一斉にISO2002を取得にこぎつけました。

NTTからの発注量が減少していく中でコストダウン要請に応じていくのはなかなか難しく、組織の大幅な見直し、協力会社の再編、同業他社との提携など種々の試みを展開しました。そのような中でソフトウェア開発の分野で病院給食管理システム(ニュートリメイト)が大学付属病院や大病院での納入実績が大幅に向上し、自社ブランドを確立できたのは大きな励みになりました。

NTTを離れてからのNWのデジタル化はインターネットサービスが導入され、デジタル化された移動体通信の普及によって急速に進みました。この変化によって転職した当時の同業社の多くが姿を消しましたが、DDKは現在も業界の中堅として活動している姿を見ると当時の苦労は無駄ではなかったと思えます。DDKには26年間在籍しました。

このように曲がりなりにも80年を過ごせたのは先輩諸氏の導き、良き仲間にも恵まれたことは勿論ですが、私は変化を喜び楽しむことを心がけ、チャレンジ精神を失うことなく事に当たろうとして進んできたのが幸いしたのではと考えています。これからもこの2つをベースに科会の発展に関わっていければと考えています。

杉田慶一郎先生を偲んで

杉田慶一郎 先生



ご 略 歴

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1928年 1 月 | 宮城県にてご誕生 |
| 1952年 | 東北大学工学部電気工学科卒業 |
| 1952年 | 東北大学大学院特別研究奨学生 |
| 1955年 | 東北大学工学部 助手 |
| 1961年 | 東北大学工学部 助教授 |
| 1962年 | 工学博士(東北大学) |
| 1965年 | 西ドイツユーリッヒプラズマ研究所客員研究員 |
| 1974年 | 岩手大学工学部 教授 |
| 1993年 | 岩手大学定年退職、名誉教授 |
| 1993年 | 八戸工業大学 教授 |
| 2000年 | 八戸市内病院附属介護施設 施設長 |
| 2023年 2 月 | 逝去 (95歳) |



杉田慶一郎先生を偲んで

岩手大学名誉教授・元電気電子工学科教授

藤原民也

岩手大学名誉教授杉田慶一郎先生は、令和5年2月16日にご逝去されました。満95歳でした。謹んで哀悼の意を表します。

杉田先生は、昭和3年1月15日に宮城県でお生まれになり、昭和27年3月東北大学工学部電気工学科をご卒業後、昭和30年4月母校に助手として奉職されました。その後、昭和36年3月東北大学工学部の助教授に昇任し、昭和49年4月に岩手大学工学部の教授として赴任されました。平成5年3月に停年退職するまで数多くの研究論文を発表し、卓越した見識と熱意をもって教育にあたり、多くの学生を社会に送り出されました。

先生のご専門は、液体絶縁物の高電界電気伝導現象、気体放電工学およびプラズマ工学でした。岩手大学に赴任の年から高温プラズマ装置の製作に取り掛かりました。それは、西ドイツのユーリッヒプラズマ研究所に2年間の留学で得た研究成果に基づくものでした。装置製作には、真空技術、電子回路工学、高電圧工学、プラズマ物理学と多岐にわたる経験と知識が必要でした。先生は電子回路・電気回路にも詳しい方でした。コンデンサーバンクの放電だけではプラズマの発生に再現性がないため、気体の予備電離が必要になりました。研究室ではそのための高周波放電回路をあれやこれやと検討しました。研究室スタッフの意見がおおかた出揃った頃、先生は黒板の前に出て、高周波発振回路をサラサラと板書しました。その回路図にはすべての素子に数値が入っており、後日完成した発振回路のほとんどすべての素子の値は2桁以内で一致しておりました。こうして先生から教えられた回路技術は少なくとも筆者には実践回路として大いに役に立ちました。

先生の言葉はいろいろな場面で思い出します。

例えば、電気回路の製作では、一点アース、列車方式など、また高電圧の取り扱いでは、フルプルーフ、これは、fool-proofと書き、waterproof（防水）、fire-proof（防火）と同じproofの使い方です。乱暴な言い方をすれば「馬鹿防止」（先生がそのようにおっしゃいました）です。例えば、高電圧機器のそばで作業をしている人がいる場合に誰かが誤って高電圧電源のスイッチを入れたとしても、その瞬間直ちに高電圧が印加されることはない、そのような安全装置を備える、それがfool-proofの考え方でした。また予期せぬ結果が出て、それがたまたまと思えるようなときでも必ず原因があるはずだとおっしゃり、「必然は偶然の姿で現れる」と言われたことを今でも思い出します。先生の言葉として、3Wを付け加えます。これは元々外国の戦国時代の言葉だそうです。当時の男たちは戦いにかけてということで、一つ目のWは「戦」のWar。二つ目のWは、Womanで「ご婦人」はとても大事、三つ目のWはWine「ワイン」、これも大事。しかし、現代はWarは、Work「仕事」に替えなければならぬし、WomanはWife「妻」でなければならぬ、最後のW、「ワイン」だけはこのままでよい、とお話しました。先生は2年間西ドイツに留学されたこともあり、大のワイン好き・ワイン通で



杉田先生

した。それもドイツの白ワインでした。「ライン川流域には美味しいワインが多く、右岸と左岸でそれぞれに特徴がある」と研究室のコンパで話されたことも思い出深いところです。

岩手大学を退職後は、八戸工業大学工学部エネルギー工学科に赴任し、7年間教授として勤務されました。御地では、高電圧工学などの講

義を担当し、擬火花放電などで卒業研究を指導する傍ら、総合教育センター長を務めるなど相変わらずお忙しい毎日を過ごされたようです。

コロナ禍の折、ご葬儀はご家族で執り行われました。先生のご功績に改めて敬意を表とともに、生前のご指導に深く感謝しつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



杉田先生を偲んで

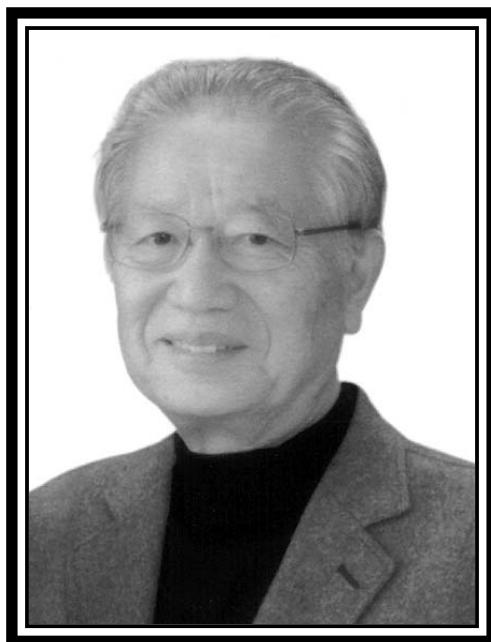
鈴木和夫（昭和52年電気卒）

本年2月の杉田慶一郎先生ご逝去の報は、藤原先生からの連絡で知りました。杉田先生は、私が大学2年生になる1974年4月に、それまで涌井先生が教授をされ電動機関連の研究室だった電気基礎学講座の教授として東北大学から赴任されました。同時に電動機関連研究の一部も引き継ぎながら、核融合プラズマと放電の基礎研究をする研究室になりました。先生の講義を受けたのは、恐らく3年生の時だと思いますが、佐藤淳先生の電磁気工学と杉田先生の高電圧工学が一番記憶にあり、杉田先生の講義では、高電圧充電部付近に手を近づける場合、手のひらを上に向けて近寄れと言われ、今も車のドアを開けるときは指で無く、手の表側で触れる様にしています。また一点接地の話は、研究室配属後に、高電圧コンデンサ放電による設備保護、計測装置の誘導障害防止で、“あっダメだね”を口癖に、必ず一点接地にしなければならぬ事を実物で教わりました。私は日立製作所関連企業に就職後、40才頃から風力発電設備建設、O & M業務をしてきました。日本海側の冬季雷（正極性）はすさまじく、夏季雷（負極性）の数百倍に達する電荷量を計測し、しかも一冬期間に100回以上の激雷に曝され、風車内部、周辺の配電盤等が焼損する事故を経験し

ました。この対応には、学んだ一点接地を徹底した事により、その後20年以上撤去されるまで、同様の落雷事故が無い安定稼働を実現しました。正に生きた教育のお陰で対策が出来たと心からの尊敬の念を抱いた経験でした。また杉田先生は愛煙家で、講義休憩時間に一服され、ある時は講義に集中していたため白墨を口にしたりした事も今では懐かしく思い出されます。先生は1993年に八戸工業大学に移られ、その7年後には大学時代の同級生が院長をする八戸市内の病院付属介護施設（確か“福寿草”）の施設長をされておりました。その時にお会いした時は、三沢にある海上自衛隊の記念行事に元海軍兵学校卒のためOBとして招かれ、P3Cで敵潜水艦を補足したら具体的対応をすべしと意見されたようにお聞きしました。尚、更に約10年後の2010年頃には、岩手県滝沢市の自宅に戻り、静かにお過ごしになられていたと思います。先生が日本初のデシケーター中の無電極放電に成功した事、核融合プラズマ研究の中心の名古屋大学プラズマ研究所の所長招聘の話もお断りになる性格で、研究希望学生の思想信条は問わないと言う、兎に角、研究と教育に一身をささげた人生でした。杉田先生、どうぞ、やすらかに眠り下さい。合掌！

横山隆三先生を偲んで

横山隆三 先生



ご 略 歴

- | | |
|-----------|------------------------------------------|
| 1939年 9 月 | 韓国釜山市（日本統治時代）にて誕生 |
| 1945年 | 福井県に帰還 |
| 1964年 | 東北大学工学部電気工学科卒業 |
| 1966年 | （同上）工学研究科修士課程修了（電気及通信専攻） |
| 1970年 | 米国Rochester大学理工学部博士課程修了（Ph.D. 取得） |
| 1970年 | 東北大学工学部助手 |
| 1972年 | 岩手大学工学部助教授 |
| 1982年 | 岩手大学工学部教授 |
| | 米国カンザス大学宇宙技術センター在外研究員（1975～1976） |
| | 東北大学北東アジア研究センター客員教授（1998～2002） |
| | タイのアジア工科大学 Visiting professor（2002～2004） |
| 2005年 | 岩手大学定年退職、名誉教授 |
| 2005年 | 岩手大学客員教授（2011年まで） |
| 2011年 | 株式会社横山空間情報研究所設立 代表取締役社長（2018年まで） |
| 2019年 | 株式会社タックエンジニアリング 技術顧問就任 |
| 2023年 5 月 | 逝去（83歳） |



横山隆三先生の思い出

弘前大学准教授

丹波 澄雄（昭和58年情報卒）

情報工学科は私が入学した年に最初の卒業生が出た若い学科でした。横山先生の講義も幾つか受けました。講義の何処かで聞いたリモートセンシングや画像処理に興味を惹かれ、横山先生の研究室を選び、3年後期から研究室に配属され、4年生の先輩の研究のお手伝いをしていました。先輩は三陸沿岸の航空機リモートセンシングデータの統計解析を行っておりました。使っていた解析ソフトは横山先生が自分で作成されたソフトで、良い結果を得るためにデータの組み合わせを総当たりで確かめておりました。このソフトは私も使わせて頂くことが有り、出力結果はラインプリンタ用紙に印刷されるのですが、ページレイアウトがしっかりしており、統計解析に必要な情報が漏れなく印刷されていることを、懇切丁寧に嬉しそうに説明して頂いたことがあります。

あるとき朝一で横山先生に呼ばれて、研究データの処理結果を明日までに出してくれと頼まれました。色々やることが有りましたが、何とか時間を作って作業ができるようにスケジューリングをしました。ところが午後になってきて「できたか?」と。「先生、明日までって言ったでしょ!」と。こんなことは一度では有りませんでした。全く気が短いんだから、と研究室の皆が思っていました。自分も研究室の学生に研究の指示を出しますが、結果が早く知りたく、自分でやれば直ぐに結果が出せるのと思いながら、学生が結果を持ってくるのをまだかまだかと待っています。結局のところ、この結果で次にどうすれば良いのかを考えなければならぬので、早く知りたい、その気持は良く理解できるようになり、他に気が短いわけではなかったんだと理解しました。

情報工学科には紙カードで作成したプログラムをバッチ処理で実行できる中型コンピュータ HITAC M-150 が導入されており、授業や研究では盛大に使いました。横山先生の三陸沿岸の航空機リモートセンシングの成果を元に岩手大学にリモートセンシングデータ解析室が情報工学科の横に設置されました。このときに導入されたコンピュータはスーパー・ミニコンピュータ MX3000 で OS は当時は最新の UNIX でした。UNIX 環境は素晴らしく、複数の端末から同時に利用できる TSS 機能があり便利なので、研究室の皆が虜になりました。プログラムを作ったり、システム開発をしたり、データ解析を行ったりと、様々に利用して多くの結果を出してきました。あるとき横山先生とシステムの話をしていたら、アメリカに留学していたときに使っていたコンピュータ OS が UNIX であったことが判明しました。我々が騒いでいるよりはるか昔に（コンピュータ業界では2年1昔と言われています）UNIX に馴染んでいて、我々が行っていることを知らん顔で温かい目で見てくれていたのです。

インターネットは大学、研究所などの教育・研究機関では一般社会より早くから利用できる環境にありました。情報工学科ですから積極的に関与しており、リモートセンシングデータ解析室でも早々に利用できるようになりました。初期の頃は低速回線だったので、遅くて大変でした。イーサネットが普及してコンピュータを繋げば世界中とデータのやり取りができるという概念の話をして横山先生としていたとき、横山先生がインターネットをアースネットと呼んでいました。単なる呼び間違えと思いましたが、概念的には地球全域を覆っているネット

ワークを意味しているのであるから、インターネットという単語より地球を覆っているネットワーク=アースネットは実には的確な単語であると理解できました。ちなみに、インターネットの本来はLAN（ローカルエリアネットワーク）とLANの間を繋ぐネットワークのことを意味しているのですが、いつの間にか繋がったネットワーク全体を指すようになりました。

あるとき研究室で片付けをしていたときに、壊れたラジコン飛行機が出てきました。横山先生にこれは何ですかと尋ねた所、三陸沿岸の航空機リモートセンシング以前のリモセン活動のお話になりました。リモセンの教科書には鳩に小型のカメラを取り付けて撮影したとの記述があります。高いところからの撮影に伝書鳩を用いるアイデアは面白いと思いましたが、横山先生はラジコン飛行機に着目されたそうです。ラジコンが趣味の職員がいらして、その方に頼んでラジコンを飛ばして貰い、取り付けたカメラで農業試験場の画像を取得して解析を行ったそうです。滑走路を用意できないので、カタパルト（射出装置）を用いて何度も失敗して、当然着陸するための滑走路も無いので撮影が終わったらパラシュートを開いて速度を落とし、落下してくる飛行機を拾いに行くことを繰り返した、と懐かしそうに語っておられました。1990年から5年間に渡って実施された

MUBEX：国際共同観測実験では、人工衛星NOAAの観測時刻に同期した地上実測データを得るために、青森県むつ湾の真中に小型のブイを設置して、気温、日射、天空温度、鉛直水温（多深度計測）、流向・流速を10秒間隔での計測を行いました。海表面からの鉛直温度分布計測のために水深0cm、10cm、20cm、30cm、50cm、100cm、200cmに温度計を設置して多深度計測を行いました。この多点温度計測のアイデアはラジコン飛行機を飛ばしていたときに数十個のサーミスタ温度センサを地上の植物に取り付けて計測を行っていた経験に基づいているとさりと述べられていました。あの当時であれば不可能ではないけれど、相当に大変な作業であったと思われる。この話から、素晴らしい研究結果が得られるためには、その前に様々な実験や経験があつてこそなのだとして強く認識させられました。

横山先生は研究をするための生活をしていて、言い換えると研究のために生きていた様に見えました。いつも何か考えていて、思いついて、我々を巻き込んで、何事かを成して、を繰り返していました。何でも見て、何にでも好奇心を持って、たまにポカをするけれど、それも取り込んで進めてゆく、そんな先生でした。見ていて飽きない、その姿から色々なことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。



横山先生の思い出

(株)ラング 常務取締役

千葉 史（平成6年情報卒）

私は横山研究室に配属されてから先生がお亡くなりになるまで、研究室で12年、その後、先生が設立に携わった(株)ラングに入社してから18年と、長きにわたり大変お世話になりました。先生が退官後も年に1、2度はお会いする機会

があり、思い出も多くありますが、そのいくつかを紹介させていただきます。

先生と初めてお会いしたのは大学2年生頃の制御工学の講義でした。「入力、処理、出力、フィードバック」が印象に残る講義でしたが、

授業が始まると教室のドアに鍵をかけ、遅刻してきた学生を教室に入れられないことに驚きました。また、別の講義では、期末テストで受講者全員が不合格、ということもありました（再試はありました）。大変厳しい指導をされる先生でしたが、あとでお聞きしたところによると、「教育は挑発」というポリシーによるものでした。指導を受けた側としては理不尽に感じることも多くありましたが、「挑発」が根底にあったと知って改めて納得できる場所もありました。もう少し早く知りたかった、というのが本音ですが、一方で「研究は暗闇の中から鍵を拾うようなものだ」とも仰っていて、ご自身にも厳しい方でした。

研究室に入ってみると、先生は大変お忙しい、指導は院生任せで、お話しする機会はさほど多くなかったと思います。そんな中でも覚えているのは、「地球観測衛星 LANDSAT は上空約 700km から観測しているが、これは盛岡から名古屋を見るということだ」という例えです。LANDSAT は地上分解能が 30m なので、上空から盛岡駅やアイスアリーナの形を認識することができますが、先生の例えで言い換えると、盛岡で望遠鏡を構えるとナゴヤドームの形が捉えられる、という意味になり、観測距離の遠さやセンサーの高精細さをより実感することができました。

私自身が大学院に上がると、横山先生とマン

ツーマンでお話しする機会も増えました。標高データの内挿に使うために絶対振動しないという関数の挙動を調べたい、と教授室に呼ばれたときは、先生が変数に場合の数を入れてどんだん紙に書いていく隣でひたすら電卓をたたいて答えを伝える、という作業を手伝いました。エクセルやプログラムを使った方が良いのではと提案してみましたが、手計算が良いのだと叱られました。最終的には、ある条件で振動することが判明して後に先生が論文を書かれたのですが、自分の手を動かしながら計算する大切さを学んだ良い思い出です。私は今でも、新しいアルゴリズムを実装したり、バグが出たときには、手計算で確認することを心がけています。

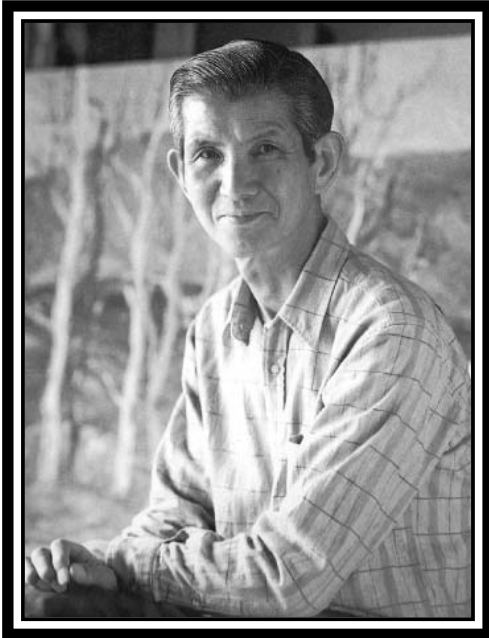
(株)ラングは 2023 年で 20 周年を迎えました。ラングは先生の特許を考古学遺物の記録図化に応用して設立した会社です。2023 年 2 月末には業界関連のオンライン研究会で技術発表する機会があり、その会に先生も参加して下さっていて、会の後に「日本の考古学に新しい足跡を残すことができ、本当に良かった」と仰っていただきました。この時にはお元気にされていたように記憶していますが、お亡くなりのお報を受けたのはその僅か 2 ヶ月後でした。最期にラングの成長した姿をお見せすることができ、本当に良かったと思っています。心よりご冥福をお祈り致します。



(左) 横山先生がよく使われたポンチ絵
(右) リモートセンシングデータ解析室

阿部長一相談役を偲んで

阿部長一 相談役



ご 略 歴

- 1924年 盛岡市大工町に生まれる
- 1939年 盛岡市立仁王尋常高等小学校高等科卒業
- 1941年 岩手県立盛岡工業学校土木科卒業
- 1944年 盛岡工業専門学校電気科卒業
国鉄盛岡鉄道管理局に就職
- 1956年 岩手大学工学部電気工学科卒業
- 1967年 岩手大学電気科会第8代会長就任
- 1972年 国鉄、名古屋鉄道管理局を退職
- 1978年 現代美術家協会（第34回現展）新人賞
- 1984年 東京金属文化展理事長賞（特別招待出品者）
自治会館で第1回個展（この後3回個展）
現代美術家協会会員
- 1987年 現代美術家協会退会
- 1989年 阿部長一画集「色彩を追って」出版
- 2005年 「旅のエチュード」出版
- 2012年 岩手大学電気電子情報科会「草刈功労賞」受賞
- 2022年 2月18日 逝去 享年99



元電気科会会長 阿部長一さんを偲ぶ

柏 葉 安兵衛（昭和38年電気卒）

岩手大学電気科会元会長阿部長一さんは、令和5年2月18日に享年99でご逝去されました。

阿部さんは、1924年（大正13年）盛岡にお生まれになり、1944年9月には盛岡工業専門学校電気科4回生としてご卒業されました。阿部さんの学生時代は太平洋戦争の真只中で、当初の戦勝ムードがやがて人的にも激しい消耗戦に移っていった時代でした。卒業後日本国有鉄道（国鉄）盛岡鉄道管理局にお勤めしていました

が、1年足らずで終戦になりました。戦後、荒廃し切った日本の復興は鉄道輸送にかかっていましたから、国民の期待を背負って頑張ったと想像されます。阿部さんは、母校が大学に昇格すると向学心に燃え、「工学部電気工学科」に入学し、1956年大学4回生として卒業されました。仕事をしながら、その他の時間で大学課程の勉強をしたことに、学問への強い情熱と大変なご努力を感じます。やがて名古屋鉄道管理局

に転勤、1972年に退職しました。それからしばらく仙台で新幹線に携わった後盛岡に戻り、(株)共立盛岡工場（滝沢市）にお勤めになりました。

私が初めて阿部さんにお会いしたのは1968年のことで、新設まもない電子工学科で教授をなさっていた2年先輩の一戸英敏先生（昭和17年電気卒）を訪ねてこられたときでした。ハンサムでスタイルが良く、身のこなしがキビキビとしたハリウッドスターのような方というのが第一印象でした。それから間もなくして、工学部長の草刈先生がお亡くなりになるという衝撃的な出来事がありました。工学部葬は7月15日に卒業生を含めおよそ800人が参列して盛岡体育館で行われました。その頃、阿部さんは電気科会（電気電子情報科会の前身）の会長をなさっておりましたので、同窓生への連絡や取り纏めで、大変ご苦労なされたことと思います。さらにその後、「草刈遜先生追悼記念事業実行委員会」を組織して委員長となり、事業を推進されました。事業の一つとして翌年発刊された「草刈遜先生の想いで」という記念誌の序文は阿部さんによるもので、草刈先生に対する思いが簡潔な表現の中にも満ち溢れ、非常に感銘を受けました。後年、阿部さんは電気科会創立50年記念誌「炎」に、“私の会長在任中は、この事象があまりにも大きく、他のことがらが霞んでしまっははっきり思いだせるものはありません”と述べておられます。阿部さんはまた、工学部（現理工学部）の同窓会“一祐会”の理事も長年お努めされました。

草刈先生の追悼事業が一段落してから、一戸先生は「岩手大学電気科会三十年記念アルバム」の発刊を計画していました。“いま資料を纏めておかないと、後世に伝え残すことが出来ない”との強い思いがあったようです。タイトルの通り、ほとんど写真で埋められた本ですが、ところどころに詳しい解説文があり、当時の様子が良く理解できます。しかし、先生は資料集めに大変困っておりました。そのような時、“阿部さんが資料をきちんと整理して保管している”ということを知り、その資料を拝借して編集し、アルバムが完成しました。このアルバムの発刊

は、「岩手大学工学部一祐会30年史」、そしてその後続く様々な工学部関係の記念誌発刊の草分けになったものです。阿部さんの整理された資料の存在が非常に大きかったと考えています。

阿部さんはまた、画家としての一面をお持ちで、若い頃から沢山の絵を描いてこられました。1989年（平成元年）に出版された“阿部長一画集「色彩を追って」”を拝見しますと、子供の頃から絵がとても上手であったことがわかります。この画集に収められている作品の多くは国鉄をご退職後に描かれたものようで、様々な賞を頂いたり、個展を開いたりしたのもご退職後のようでした。画集には盛岡の、特に“高松の池”やその周辺を描いた作品が多く収容されており、阿部さんがいかに盛岡に愛着をお持ちであったかが理解できます。その中の1枚、高松の池を描いた油絵“図書館の見える風景”と“画集「色彩を追って」”、そして奥様との旅或は団体旅行の思い出をスケッチと共に纏めた随筆集「旅のエチュード」が一祐会に寄贈され、絵は一祐会館の中会議室壁面を飾っています。

いま私には、阿部さんが極楽浄土で奥様と一緒に美しい花々に囲まれながら絵を描いている姿が浮かんできます。ご冥福を心からお祈りいたします。



「図書館の見える風景」
（一祐会館所蔵）

小野寺瑞穂元副会長・理事を偲んで

小野寺瑞穂 元副会長・理事



ご 略 歴

昭和6年 盛岡市生姜町生まれ
昭和19年4月 旧制盛岡中学入学
昭和25年3月 盛岡第一高等学校卒業
昭和25年4月 岩手大学工学部電気工学科入学
昭和29年3月 岩手大学工学部電気工学科卒業
昭和32年 一祐会役員
昭和34年 東洋電業(株)設立
昭和60年～平成11年 電気電子情報科会副会長
平成22年～平成24年 一祐会副会長
平成28年 草刈功労賞受賞
令和5年5月4日 逝去(享年93歳)



小野寺瑞穂さんの思い出

柳橋好子(昭和45年電子卒)

小野寺瑞穂さんは私にとって高校・大学の先輩です。私が事務局として科会の仕事を担うようになり、お世話になってから20年になります。

小野寺さんは、電気の会社の役員としての仕事のほかに、ナレーターや盛岡弁での朗読など、各方面で活躍されていました。科会ホームページの「会員からのお便り」に寄稿して下さったNHKの創成期のことなどは貴重な記録として科会の宝になると思います。

だいぶ前、総会の特別講演の講師をお願いしたことがあります。盛岡弁や昔話の話をしていただきましたが、内容が素晴らしかったのはもちろんですが、1時間の間に一度も「あー、えー、そのー」など、無駄な音が一切ないことに感心したことを覚えています。

科会の事業には仕事と重ならない限り、ダンディで穏やかな笑顔の小野寺さんがいました。

そんな小野寺さんから理事会出欠の返信がないので、電話をしたら、奥様が脊柱管狭窄症で入院したけれど、コロナで面会できず、可哀そうで心配でたまらないので自宅に引き取って介護をしているんだよと。

その後、80周年の実行委員会メンバーが決まり、その旨をメールしました。しばらくして小野寺さんから長いメールが届きました。令和3年3月の事です。

前年秋口に介護で腰が痛くなり近所の外科医院に行ったら「顔色が悪い、すぐに大病院に行け、一刻を争う、まず自分の命を大事にしなさい」と言われた。悪性の癌で、一週間で退院したけれど体力が回復しない、隔月で検査をしているがいつ再発するか転移しないか不安の日々を過ごしている、また、奥様をショートステイに預けたけれど面会禁止で、認知症が心配でたまらないなどと書かれていました。

私は、胸が締めつけられるほど驚きました。奥様の介護が大変だろうとあえて返信の催促をせずにいましたから。

最後に、「機会を見て理事の席を抜いていただきたい。80周年に元気でみな様にお会いできると嬉しい」と結んでありました。

すぐに返信しました。とにかくご自分のお体を大事にしてほしい事、そして小野寺さんのいない科会はありませんこと、来られるようになったら出て来てほしい事など。

その後何度か電話で元気になった声を聞きました。次の年6月の総会に出席して下さったときは本当に嬉しかったです。

でも、80周年の席はご一緒できませんでした。小野寺さん、本当にありがとうございました。

思考の散歩道

西山 清



会員の皆様におかれましては、日々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、令和5年3月末をもちまして岩手大学を定年退職いたしました。

私の在職時の思い出として、研究生活の一端を紹介したいと思います。私は特に実験をすることもなく、自分の居室（しばしば移動中の電車の中）で理論的思考を繰り返す生活を数十年続けてきました。この機会をお借りして、その中の三つのテーマに関して色々と考えて来たことを「思考の散歩道」として紹介致します。

1) 離散フーリエ変換のジレンマ

基本周波数の整数倍の周波数をもつ複素正弦波信号を離散フーリエ変換（DFT）すれば、ラインスペクトルが得られます。しかし、指数減衰を伴う場合、ローレンツ型と呼ばれる裾野が広いスペクトル形状となります。スペクトルの周波数分解能を上げるために時間長（データ長）を伸ばすと、この減衰の影響は顕著になり、隣同士の成分のスペクトルの裾野が重なり合い大幅に周波数分解能が低下してしまうと云うジレンマに遭遇します。典型的な指数減衰複素正弦波信号として核磁気共鳴信号が知られています。私の博士論文「核磁気共鳴信号からの情報抽出に関する研究」（1991年3月 東京工業大学）は

このジレンマに対する挑戦でした。この研究から複素信号の標本化定理を定式化し、最大周波数の1倍の周波数以上で標本化すれば元のアナログ信号を完全に復元できることも明らかにしました。

岩手大学に在職中は、単一複素正弦波信号を中心に、さらに詳細に研究を進めました。面白いことに、この研究成果をインドの研究者達が電力系の基本周波数信号の抽出に応用しています。

2) 適応アルゴリズムのあれこれ

代表的な適応アルゴリズムとしてNLMSアルゴリズムとRLSアルゴリズムが知られています。NLMSアルゴリズムは経験則から近似的に導出され、RLSアルゴリズムは出力2乗誤差を最小にする解の再帰式として理論的に導かれています。それぞれの時間計算量も、タップ数 N に対して、NLMSアルゴリズムは $O(N)$ であり、RLSアルゴリズムは $O(N^2)$ と大きく異なります。

この全く異なった二つのアルゴリズムは統一した理論で扱うことができるであろうか？

私は H_∞ 理論の枠組みを用いれば、この問題が解決できることに気づきました。従来の H_∞ フィルタリング問題をさらにパラメータで最適化したハイパー H_∞ フィルタリング問題を用いれば、NLMSアルゴリズムとRLSアルゴリズムはそれぞれパラメータ平面の点と線となり、その中間的な特性をもつ適応アルゴリズムを連続的にいくらでも求められることがわかりました。すなわち、NLMSアルゴリズムもRLSアルゴリズムもハイパー H_∞ フィルタリング問題の解

の一つとなります。この研究成果により、用途に合わせて、様々な適応アルゴリズムをより容易に設計できるようになりました。

一方、RLS アルゴリズムはある条件下のカルマンフィルタとアルゴリズム的に一致し、 $O(N)$ の高速アルゴリズムが存在します。この高速アルゴリズムはリカッチ方程式の計算を用いずに、その行列解の逆行列のシフト特性を利用してフィルタゲインを求めています。もう一つの高速化法は、行列解の時間差分を低次元の行列の積に分解し、低次元行列の更新式からフィルタゲインを求める方法です。これらの高速化法によって導出したハイパー H_∞ フィルタの高速アルゴリズムを高速 H_∞ フィルタと呼んでいます。

高速 H_∞ フィルタは一時期、Skype のエコーキャンセラとしてテレビやブルーレイレコーダーに搭載されました。現在は、シャープのロボホンなどに利用して頂いています。

3) 深層学習（ディープラーニング）の謎

私は卒業研究から現在まで 40 年以上にわたってニューラルネットワークの学習の基礎研究を行ってきました。気づけば、今、AI 革命の真ただ中にいます。ディープラーニング、ChatGPT、生成 AI の花盛りです。この分野に長く関わりながら、このイノベーションに貢献できなかったことを残念に思っています。日本はニューラルネットワークの研究で最先端を走っている時期があったにもかかわらず、日本からディープラーニングや ChatGPT は生まれませんでした。それはなぜか、その原因の本質はなにか。自問自答しています。

現在の AI 革命の発端となったディープラーニングですが、色々と不思議なことが起こります。最も不思議に思うことはディープラーニングが初期値に関係なく学習が達成されることです。一般に、ニューラルネットワークの学習は、高次元のパラメータ空間上の停留点を多く含む

非常に複雑な形状を持つ誤差曲面に沿って解を探索する問題です。よって、ニューラルネットワークのパラメータ（結合重みとしきい値）の初期値によって誤差曲面のスタート点が異なるため、解を探索する経路も異なり、学習回数や到達誤差が大きく異なることが一般的です（私が世界に先駆けて提案した H_∞ 学習 (IEEE, 2001 年) は小規模ネットワークの学習において初期値の影響をほとんど受けません）。しかし、ディープラーニングではこの現象が見受けられません。この不思議な現象の説明のヒントは「宝くじ仮説」にあるかもしれません。宝くじ仮説とは、大規模で冗長な深層ニューラルネットワークの場合、それと同程度の学習性能を実現するサブネットワークが存在すると云う仮説です。これをヒントに、偶然、良い初期値に当たったサブネットワークが主導的に学習（部分空間上の誤差曲面に沿った探索）を遂行すると考えれば、ネットワーク全体の学習が常に初期値に影響されずに済むかもしれません。計算に必要なリソースを除けば、小規模なネットワークより、超々大規模なネットワークの方が、学習が容易に見えてくるのは不思議です。

ChatGPT 3.5 のパラメータ数は 3550 億個、ChatGPT 4.0 では数兆個と言われています。3550 億次元、数兆次元の空間上の誤差曲面の探索問題は想像できません。開発元の OpenAI でさえ、この問題は説明できないのではないのでしょうか。

大規模言語モデルに基づく ChatGPT は 1978 年に公開されたルパン三世に現れる巨大脳を連想させます。ChatGPT はどこまで進化するのか。量は質を変え続けるのか、興味が尽きません。

最後になりましたが、生成 AI 時代を生き抜く現役世代の皆様のご活躍を期待すると共に、電気電子情報科会の益々の発展を祈念いたします。

電気電子通信コースの近況

システム創成工学科

電気電子通信コース長 高木 浩一

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

電気電子通信コースでは今年度、59名の学部生、37名の修士課程学生を新たに迎えることができました。今年度4月には、59名の新入生を迎えることができました。本コースの教職員スタッフは、前年度に太田康治技術職員がご退職され、大坊真洋准教授が4月に教授へ昇任されたため、今年度は、教授7名、准教授5名、助教5名、技術部職員5名で教育および研究活動を行っております。太田さんの長年にわたる多大なるご尽力に改めて感謝申し上げます。

今年度は、昨年からウイズコロナへの移行が進められて、岩手県民会館において3年ぶりに入学式が実施され、授業も基本的に対面での実施へと移りました。しかし昨年度はまだ制約も多く、工場見学も県内に限定したもので、ソフトボール大会などのスポーツや食事を伴うイベントは実施できませんでした。今年度はポストコロナへの移行が進み、工場見学も関東地域でNTT武蔵野研究開発アンリツ(株)、富士通(株)厚木研究所センタ、東芝エネルギーシステムズ(株)浜川崎工場への見学に17名の学生さんが参加しております。一昨年に退職された方や、コロナ期間に新任された方々の慰労会や歓迎会も実施することができ、脱コロナが進められています。

研究面では、村田健太郎助教が8月に長期学外研修(研修場所:Lund University, Sweden)からお戻りになり、阿部貴美助教の長期学外研修(研修場所:University of Saskatchewan, Canada, 研究テーマ:ESRによるZnO単結晶の欠陥解析とYAP:Ce/ZnO放射線検出器の開発、期間:10カ月)が、昨年6月より実施され

ております。どちらもその研究成果が期待されています。

一昨年はコロナで開催を見送らざるを得なかったコースや研究室での歓迎会、観桜会、忘年会、新年会、その他の対面イベントなど、今年度はコロナ前と同様に開催することができました。学生時代である今しか味わえないであろうことを体験させてあげられる状況に戻ったことはうれしい限りです。

一方で学会の講演会では対面とリモートのハイブリッド形式が定着しつつあります。リモートには場所に制約されない便利さがありますが、対面でしか伝わらないこともあります。当コースでも、状況に応じて臨機応変に、各々の利点を上手に利用して、教育と研究の質の向上に取り組んでまいりたいと思います。

学生の進路に関しましては、今年も大学院進学率は約6割となりました。就職も例年通り堅調です。今年度も半導体関連メーカを希望する学生が多くみられました。日本の景気はコロナ危機から回復傾向をたどってきてはいますが、ロシアによるウクライナ侵攻や高インフレと金融引き締めなどによる世界情勢の影響もあり、まだ低迷気味です。しかし、このような状況であっても、当コースの卒業・修了生への期待度は高く、これもひとえに電気電子情報科会諸先輩方のご活躍の賜物であると思います。

最後になりましたが、今後も教職員一同、社会で活躍できる優秀な人材をより多く送り出すことができる、より魅力のあるコースとなるよう、教育と研究の充実に努力して参る所存です。会員の皆様には、今後とも本電気電子通信コースの教育・研究活動等へ、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科

知能・メディア情報コース長 永田 仁 史

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。令和5年度の本コースの近況をお届けします。

平成28年の学部改組により、本コースが理工学部システム創成工学科、知能・メディア情報コースとなってから8年目、また、修士課程改組からも7年目となりました。ここ数年はコロナの猛威が学内に種々の影響を与えており、入学・卒業関連の行事中止や簡素化、講義に関しては多くの講義の遠隔化の他、演習においては生徒間スペース確保のため2部屋に分散しての同時進行化など、いろいろなコロナ対策を重ねてきましたが、ようやく本年はその影響も下火となり、本来の教育・研究活動が行えるようになってきました。

一方、少子化により受験倍率低下が深刻化する中、昨今のAI・データサイエンスブームを反映してか、本コースは入試倍率に関しては、本年も何とか好調を維持しています。しかしながら、理工学部全体の倍率低下は深刻であるため、AI・データサイエンスブームの取り込みを主眼とした次なる学部改組の準備が進んでいます。とくに情報分野に関連するだけに、本コースは組織形態・運営上大きな影響を受ける可能性があり、落ち着く間もない今後数年となりそうです。

教職員については、昨年度末の西山教授の退職に続き、本年4月から堀田克哉助教が着任し、平均的には若干の若返りがなされました。コース教員の総人数は昨年と同じですが、内訳は、

教授6人、准教授6人、助教5人の計17人となりました。今後は大学の教員採用方針もあり、課題だった組織の新陳代謝の問題も徐々に軽減の方向に転じるものと思われます。

教育に関しては、一部プログラミング演習の反復効果を狙った週2回実施、1コマ100分化などのシステム変更の定着が良い方向に影響していると思われませんが、さらに、学生による授業評価フィードバックの結果を外部講師が内情を晒しながら講評しまとめるという学部FDがあってその効果はてきめんと思われ、本コースの授業評価の数値は、ここ数年下がることなく徐々に改善しています。

研究に関してもいろいろな成果がありましたが、本年はトピックとして下の受賞があったことをお伝えしておきます。

[1] IEEE Computer Society, Technical Community on Multiple-Valued Logic, [Kenneth C. Smith Early Career Award in Microelectronics]: 平山貴司 (IEEE International Symposium on Multiple-Valued Logic (ISMVL 2023))

[2] 芸術科学会論文誌 第21回論文賞: 岡野 稀央隆、山中 克久、松山 克胤、おはなし迷路の制作を支援するツールのデザインと実装

今後も、本コースは、社会の要請に応えられるよう、教職員一同努力してゆく所存ですので、会員の皆様には益々のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

草刈先生と「草刈賞」

草刈賞委員会

柏 葉 安兵衛（昭和 38 年電気卒）

今年「草刈賞」の名称になっている「草刈遜先生」ご生誕 120 周年にあたります。

草刈先生は明治 37 年（1904 年）1 月 3 日に仙台市にお生まれになりました。そして旧制第二高等学校を経て東北大学工学部電気工学科を昭和 2 年にご卒業になり、助教授をなさっていた昭和 14 年に、新設された盛岡高等工業学校に 35 歳の若さで電気科長として就任され、以来岩手大学工学部電気工学科科長、第 3 代及び 5 代工学部長などの要職をお勤めになり、ほぼ 30 年にわたって岩手大学の発展に努めてこられた先生です。この間、特に第 5 代工学部長のときに、岩手大学工学部に大学院設置を実現すべく奔走し、身を削るご努力をなされました。このようなご努力によって昭和 43 年 4 月に大学院修士課程が設置されましたが、先生はこの成果を見ることなく、前年の 7 月 5 日にご逝去されました。草刈先生は、病床にあっても最後まで大学院設置のための指示をなさっていたそうです。

草刈先生は学生から大変尊敬され、慕われておりました。「草刈賞」は草刈遜先生のご遺徳を後世に伝えるために、“草刈先生ご生誕 100 年記念事業”の一環として、教えを受けた卒業生および教職員が資金を大学に寄付し、それをもとにして草刈先生ご生誕 100 周年に当たる、平成 16 年（2004 年）1 月に設置されたものです。草刈賞の創設には太田原功氏（昭和 30 年電気卒）を委員長とする“草刈賞設置委員会”を立ち上げ、その内容が検討されました。そして、“草刈先生の教えを後世に伝えるとともに、意欲的な学生生活を送った者を表彰し、その栄誉を称える”ことを目的とすることにしました。

以来毎年、受賞にふさわしい学生が推薦され、岩手大学卒業式当日に工学部長（現理工学部長）から授与されてきました。しかしコロナ禍が拡大し、岩手大学でも所謂“三密”が制限されるようになると、学生の課外活動なども著しく妨げられ、草刈賞が期待しているような学生生活を送ることが出来る状況ではありませんでした。このような事情から、昨年度に続き令和 4 年度も草刈賞への推薦がなく、“受賞者なし”という状況が続いています。令和 5 年 5 月から、コロナ対応もインフルエンザ対応と同様に取られるようになりましたが、人が集まって何かをすることに対してまだ警戒感があって、学生の課外活動などはコロナ禍以前の状態には戻っていないようです。しかし学生の活動は徐々に活発になってきていますので、近い将来草刈賞の候補者が現れることと期待しています。

草刈賞は当初用意した 60 個のメダルがなくなれば、その時点で終了する予定でしたが、その後継続を望む声や草刈賞基金への寄付が充実してきたこともあって、継続が決まっています。新しいメダルの作成など、委員会で検討中です。引き続きご支援を御願い致します。





支部だより



令和5年度東京支部報告

東京支部長

狩野利之（昭和61年電子卒）

新型コロナが5月に5類に変更となり、種々の行動制限が緩和され、支部活動も徐々に以前のような形に戻りつつ、というのが2023年度でありました。以下、主な活動をご報告いたします。

1. 80周年記念式典でのリアルタイム配信

6月17日に行われた80周年記念式典、及び記念祝賀会において、東京支部の在家副支部長（S52 電子）、中山副支部長（H4 電気）、事務局の三浦さん（H16 電電院）の3名がzoomによるリアルタイム配信を実現し、15名の方が会の模様などをネットを介して視聴されました。



リアルタイム配信の準備

2. 2023年度の東京支部大会の開催

80周年の記念行事が6月に予定されていたため、この年の東京支部大会は、例年開催している6月から時期を秋に変更し、10月14日東京新宿の日本料理三平で開催いたしました。昨年に引き続きリアル開催とリモートを用いるハイブリッド形式で行い、会場には35名、リモートでは9名の方が参加されました。大学からは、久保田賢二先生（科会会長）、長田洋先生（一祐会事務局長）、永田仁史先生（講演講師）。また、在京他科会4名の来賓をお迎えしました。



三曲部OBの方による尺八の演奏

総会后、永田先生から「岩大理工学部の近況と私的近況」と



東京支部大会集合写真
（中央左 草川功労賞受賞の柴田隆昭さん）

題してご講演をいただき、大学の改組の計画などもご紹介いただきました。また、三曲部OBの内山和彦さん（H2 電子）、関優子さん（H12 情報）による尺八の演奏も復活し、最後に寺井正行相談役（S41 電気）のリードで逍遙歌などの歌い継ぐ歌を大合唱してお開きとなりました。

3. OBによる大学訪問

今年はOB訪問も4年ぶりに復活しました。12月15日に、中山靖茂副支部長（H4 電気）、加瀬貞二事務局長（H4 電子）の2名が、長田先生、木村先生、高木先生、向川先生、大坊先生、小林先生の研究室を訪問し、研究の内容を説明いただき、学生さんと交流を図ると同時に、同窓会の活動についてもご紹介しました。



大学訪問（向川研究室）

4. 賀詞交歓会の開催

コロナ禍の中、2020年の1月に始めた賀詞交歓会。今年も1月6日に開催しました。4回目になります。科会会長の久保田先生、一祐会会長の柏葉安兵衛先生、同事務局長の長田洋先生はじめ、25名の方にご参加いただきました。



2024.1.6 zoomによる賀詞交歓会

5. 2024年度の東京支部の活動

2024年度の東京支部大会は、6月22日14:00から新宿・三平にてハイブリッド形式での開催予定です。今後も同窓会の活性化にむけて、会員の皆さまへのメルマガの情報発信や、交流の機会・方法の検討などに継続して取り組んでいきます。様々な情報など以下のメールにお知らせください。

■科会東京支部メールアドレス：info@iueei-tokyo.main.jp

令和5年度仙台支部報告

仙台支部長

田中利光（昭和53年電気卒）

1. 仙台この一年

一年前の今頃は、「新型コロナウイルス」という言葉を一日たりとも聞かない日はありませんでした。それが、令和5年(2023年)5月から新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)感染症が感染症法における5類感染症に移行したことにより、日に日に新型コロナという言葉を使う頻度が少なくなり、令和5年12月時点では新型コロナ感染よりもインフルエンザ感染警報が発令されているほどです。

仙台の風物詩であるイベントも4年ぶりに通常規模で開催されました。5月の「仙台青葉まつり」に87万人、8月の「仙台七夕まつり」に226万人、9月の「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」には55万人の人出があり、そして12月には「SENDAI 光のページェント」が開催されています。

2. 仙台支部この一年

令和5年(2023年)1月、4月にそれぞれ計画していた新年会、長寿者を祝う会は、新型コロナ感染拡大防止の観点から、全て中止とせざるを得ませんでした。

6月の仙台支部総会は、岩手大学電気電子情

報科会総会及び創立80周年記念式典がこの仙台の地で開催されることに併せて、同会場にて科会総会開催前に実施しました。久しぶりの対面での開催ということで懐かしい面々が集まりました。

令和5年(2023年)度(6月～5月)の今後の活動計画は以下のとおりです。なお、当該年度は役員の改選期ではありませんので、役員は昨年度と同様です。

・令和6年(2024年)1月

役員会及び新年会

・同年4月

役員会及び長寿者を祝う会

3. 宮城県内在住の卒業生へのお願い

会誌「きたかみ」は配布されるけれども科会仙台支部からのメールは受け取ったことはないという方、ぜひとも氏名、卒業年次・学科、メールアドレスの情報を添えて以下へ連絡をお願いします。支部総会開催案内、イベント開催案内等を連絡いたします。

・連絡先（仙台支部代表メールアドレス）

iwueecsb@gmail.com



【創立80周年記念式典会場】



【仙台支部総会(会場は創立80周年記念式典会場と同じ)】

令和5年度盛岡支部報告

盛岡支部長

宮手 敏 雄（昭和44年電気卒）

1. 岩手県内の近況

令和5年は全国的に猛暑が続きました。過ごしやすと言われる盛岡でも、最高気温30℃超の夏日が7月22日から9月1日まで、41日間も連続した記憶はありません。猛暑日も4回あり、お盆過ぎには熱帯夜も続きました。新型コロナの5類移行で帰省客と観光客は戻り、中央通りの「さんさ踊りパレード」も以前の賑わいに戻りました。

ニューヨーク・タイムズが昨年報じた「2023年に行くべき52か所」で2位の、盛岡繁華街の喫茶店主は「外国人客は増え、東南アジアとヨーロッパが多いね。円安もあるかも？」と喜んでいました。年末年始は故郷・岩手を訪れた科会員の皆様も多かったはずです。

真夏の熱波被害は多少ありましたが、秋から師走まで暖かさが続き、直撃台風もなく紅葉は2週間ほど遅れました。実りの秋を迎えて産直のリンゴは蜜がいっぱい。紅葉は2週間ほど遅れました。初雪は平年通りでしたが、最近希な暖冬・少雪は続いています。

元日夕暮れ時に発生した能登半島地震の惨状には驚きました。3.11東日本大震災大津波で多くの援助をいただいた岩手からも、救援が始まっています。翌2日には日没直後の羽田空港C滑走路で、札幌発羽田便JAL機と地震被災地に向かった海保機が衝突炎上。お屠蘇気分は吹き飛びました。平穏な辰年に戻るよう祈念しています。

2. 支部総会

盛岡支部総会は慣例で科会総会が他支部開催の年は、翌年に2年分を審議しています。今年は6月15日の科会総会日に併催します。

3. 3年ぶりに「飲み放題」新年会

昨年は新型コロナ禍で乾杯なし・弁当だけの変則新年会でしたが、昨年5月新型コロナの5類移行に伴い、飲食業界のサービス制限も徐々に緩和されました。満を持して従来様式の円卓・大皿料理・飲み放題の新年会開催を決めました。

新年会は「エスポワールいわて」で本部理事会後、部屋を変えて1月27日午後3時20分から、支部会員を加えて15人が参加しました。久保田科会長から元日夕暮れ時、突然の能登半島大地震と、翌日は羽田空港滑走路の衝突炎上事故と続いた。これからは平穏な世界に—と挨拶、柏葉相談役の音頭で乾杯後、懇談に移りました。

立花科会副会長の司会兼行司役で参加者全員から近況報告が始まり、和やかなこの雰囲気は3年ぶりでも健在でした。学生時代の思い出、勤務先の紹介（かなりPRぽい？が貴重なお話し多数）、健康維持の秘訣など満載でした。

懇談は尽きませんでした。参加者で最も若い理事・事務局の高橋克幸准教授の三本締めでお開きしました。



令和5年科会新年会記念写真



新年会で近況報告中の柏葉相談役

令和5年度岩手大学電気電子情報科会総会

岩手大学電気電子情報科会令和5年度総会は、令和5年6月17日(土)13時30分より仙台ガーデンパレスで開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために延期延期で、本当に久しぶりの仙台での開催となりました。

議長は恒例で開催地の支部長に就いていただき、すべて異議なく承認されました。

また、総会の場で叙勲された昭和41年電気卒青木英典氏の瑞宝小綬章の紹介がありました。

総会後は80周年記念式典と祝賀会を控えて、集合写真撮影に移りました。



会長挨拶



来賓ご挨拶
(永田仁史 知能・メディア情報コース長)



議長
(田中利光 仙台支部長)

[議事録]

議長：田中 利光氏（昭和53年電気卒、理事・仙台支部長）

書記：大羽澤仁志氏（平成2年電気卒、理事）
伊東 寿枝氏（平成元年電子卒、理事）

●第1号、第2号議案について

事務局より、下記の令和4年度事業6件および令和4年度決算について報告が行われた。

- きたかみ69号発行
- ホームページ運用
- 正会員歓迎会（新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止）
- 草刈賞委員会活動（コロナウイルス感染拡大の影響により受賞者無し）
- 会費検討委員会活動
- 科会創立80周年記念事業実行委員会の活動

続いて、佐々木会計監査より監査報告が行われ、これら二つの議案については特に異議なく、

拍手にて承認された。

●第3号、第4号議案について

事務局および各担当委員より、令和5年度の事業計画案6件（きたかみ68号発行、ホームページ運営、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動（会費納入方法についてコンビニ決済等による利便性向上の検討）、科会創立80周年記念事業実行委員会活動）について説明があった。続いて、これら事業計画を勘案した令和5年度の予算案について詳細説明が行われた。

これらの提案内容については特に異議なく、拍手にて承認された。

●その他

電気41年卒青木英典様の瑞宝小受章についてのご紹介があった。

以上

令和4～5年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(令和6年1月1日現在)

役職名	氏名	卒業年学科	役職名	氏名	卒業年学科
会長	久保田 賢二	S42 電気	東京支部		
副会長・事務局	柳 橋 好子	S45 電子	幹事	小 磯 巖 男	S51 電気
副会長	立 花 龍一	S61 情報	幹事	畠 山 主	S54 情報
副会長	長 田 洋	S62 電気	幹事	吉 澤 和 弘	S54 情報
理事	佐 藤 匡	S40 電気	幹事	畠 山 寧	S59 電子
理事	吉 田 英 夫	S41 電気	幹事	田 口 之 博	S61 電子
理事	武 田 寿 郎	S41 電気	幹事	山 道 隆 男	S62 電気
理事	千 葉 則 茂	S50 電気	幹事	富 塚 秀 樹	H02 電気
理事	恒 川 佳 隆	S55 電気	幹事	中 山 靖 茂	H04 電気
理事	鳥谷部 達 雄	S56 情報	幹事	遠 藤 慎 介	H04 電子
理事	伊 東 寿 枝	H01 電子	幹事	三 浦 友 規	H16 電電修
理事	村 田 崇	H02 電気	盛岡支部		
理事	大羽澤 仁 志	H02 電気	幹事	岡 英 夫	S48 電子修
理事・盛岡支部長	宮 手 敏 雄	S44 電気	幹事	池 内 達	S50 電子
理事・仙台支部長	田 中 利 光	S53 電気	幹事	佐 藤 信	S57 電子
理事・東京支部長	狩 野 利 之	S61 電子	幹事	佐 藤 文 昭	S59 電子
理事・事務局	木 村 彰 男	H03 情報	幹事	泉 澤 栄	S60 電子
理事・事務局	高 橋 克 幸	H21 電電修	幹事	高 橋 康 浩	S62 電気
会計監査	佐々木 眞 嗣	S62 電子	幹事	伊 東 寿 勝	H01 電気
会計監査	大 坊 真 洋	H11 電情博	幹事	千 葉 幸 二	H04 情報
顧問	佐々木 經 夫	特	幹事	金 澤 博 昌	H06 情報
顧問	藤 原 民 也	特	仙台支部		
相談役(元会長)	山 崎 時 男	S24 専門	幹事	加 藤 雅 和	S49 電子
相談役(元会長)	太田原 功	S30 電気	幹事	田 代 良 二	S55 電気
相談役(元会長)	柏 葉 安兵衛	S38 電気	幹事	菅 野 丘	S63 情報
相談役(元会長)	籾 福 寛	S38 電気	幹事	柏 葉 安 宏	H09 電電

令和5年度電気電子通信コース、 知能・メディア情報コース教職員名簿

令和6年1月1日現在

電気電子通信コース (コース長 高木浩一 教授)	
職 名	氏 名
教 授	長 田 洋
教 授	小 林 宏一郎
教 授	大 坊 真 洋
教 授	高 木 浩 一
教 授	西 館 数 芽
教 授	本 間 尚 樹
教 授	向 川 政 治
准 教 授	叶 榮 彬
准 教 授	秋 山 雅 裕
准 教 授	菊 池 弘 昭
准 教 授	高 橋 克 幸
准 教 授	三 浦 健 司
助 教	阿 部 貴 美
助 教	岩 井 守 生
助 教	佐 藤 宏 明
助 教	田野崎 真 司
助 教	村 田 健 太郎

知能・メディア情報コース (コース長 永田仁史 教授)	
職 名	氏 名
教 授	今 野 晃 市
教 授	永 田 仁 史
教 授	萩 原 義 裕
教 授	藤 本 忠 博
教 授	松 山 克 胤
教 授	山 中 克 久
准 教 授	明 石 卓 也
准 教 授	木 村 彰 男
准 教 授	談 宜 育
准 教 授	張 建 偉
准 教 授	中 谷 直 司
准 教 授	平 山 貴 司
助 教	佐 藤 信
助 教	藤 岡 豊 太
助 教	堀 田 克 哉
助 教	游 夢 博
助 教	盧 忻
事務補佐員	懸 田 ひかる

理工学系技術部

職 名	氏 名
技術専門員	千 葉 寿
技術専門員	古 館 守 通
技術専門員	萩 原 由 香 里
技術専門職員	志 田 寛
技術専門職員	藤 原 歩
技術職員	庄 司 愛 子
技術職員	増 山 静 香
技術職員	平 山 有 沙
技術職員	藤 野 圭 祐
技術職員	紺 野 亮

情報技術部

職 名	氏 名
技術専門員技術室長心得	加 治 卓 磨

赤レンガ館でラジオ歌謡を歌いました

— 朋友 森田君の“昭和歌謡を歌う”コンサートにて —

柴田 隆 昭（昭和 37 年電気卒）

1. はじめに

岩手銀行旧本店本館（通称：岩手銀行赤レンガ館）の多目的ホールで、昨年の 7/16 日、84 歳のど素人の老人が「ラジオ歌謡」の名曲“母あればこそ”を歌いました。まさかこのような国指定重要文化財で歌うなぞとは夢にも思っていなかったのに、顛末記を我が「きたかみ」の読者にご紹介し、出来れば何かコメントを頂きたいと思っています。これも「草刈功労賞」を拝受した御蔭ではないでしょうか。



図1：岩手銀行赤レンガ館（チケット）

2. そもそも歌曲好き

私は本来的に歌曲や民謡を歌唱することが大好きである。ところが歌を歌うことに意識的に目覚めたのは意外に遅かったかも知れません。新宿「三平」で毎月行われる原子力機構 OB 会の例会終了後、ある先輩が『柴田君、俺の家内が赤羽でカラオケ屋をやっているが、行って見ないかい。』と言われてノコノコ付いて行ったのが始まりである。恐らく誰もがリクエストした事が無いラジオ歌謡「破れた蝙蝠傘」の曲をリクエストした。何と小生の予想に反してその曲があったので驚愕した事を良く覚えている。即ち、かつて同じ職場の先輩であった神尾善子氏が『その曲ありますよ。』・・・と軽く仰ってくれた。

3. 私の「ラジオ歌謡」普及・啓発活動について

20 ウン年前のことで、それから小生のラジオ歌謡を歌い、歌曲を歌う“真似事”が始まった。当初は「東京ラジオ歌謡を歌う会」会員として、次いで「日本ラジオ歌謡研究会」の会員として、主としてラジオ歌謡が Web でどのように取り扱われているかを調査し、二編の Paper に纏め【ラジオ歌謡研究誌】に上梓した。24 余年間のラジオ歌謡普及・啓発運動に言及すればキリが無いので止めるが、ファイルを斜めに頁を括ったら、平成 22 (2010) 年に東京ラジオ歌謡音楽会（古賀政男音楽博物館けやきホール）で前述の「破れた蝙蝠傘」の曲を歌っていることが判明した。何れ何時かの機会にこの活動の全容について紹介したいと思っている。

4. 朋友 森田（高校同期）君が上野奏楽堂でコンサートを開催

今回のコンサートには伏線があった。即ち、クラシック音楽や歌曲が好きな連中のメッカ上野奏楽堂で『～文芸コンサート～啄木、生命を歌う』と言うコンサートを平成17年6月啄木ファンを中心に東京上野で開催した。当時、盛岡での新進気鋭のテノール歌手森田純司君も盛岡と東京と言う距離には相当悩まされており、奏楽堂との交渉や首都圏での人集めにはそれなりに苦勞なされていたと思われ、それらの事態解決のために小生が奔走した。

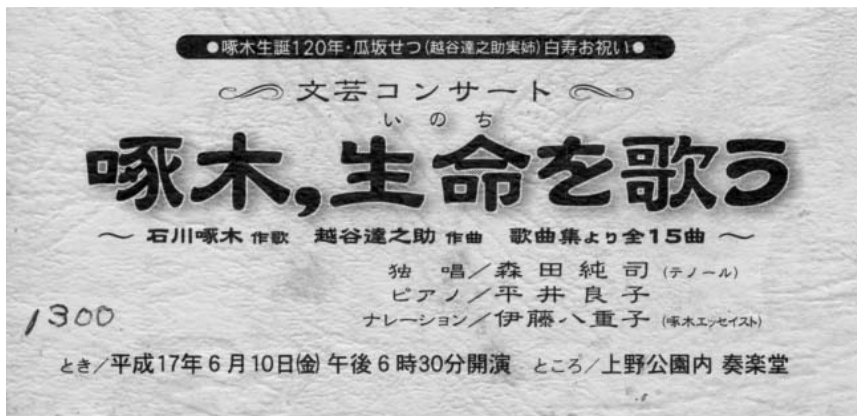


図2：平成17年文芸コンサートのチケット

5. 現代の有効道具の You-tube にもアップし 賀状でも宣伝

以下の文章を付した年賀状を250枚送付したら確実に You-tube の読者も増えているようである。

【流山通信 R6】84歳にもなると様々な肉体的な障害が発生する。「かかりつけ医」が処方した薬も多種類になる。そういう私に昨年二つの慶事が舞い込んだ。6/17 仙台にて母校“電気電子情報科会(大学同窓会)”から「草刈功労賞(振興)」なる表彰を受けた。それを契機に高校同期の森田純司君が7/16日盛岡赤レンガ館多目的ホールで“昭和の抒情を歌う”(副題)朋友[柴田隆昭君の草刈功労賞の授賞を記念して]のコンサートを開いてくれた。私はこの聴衆130名余のコンサートでラジオ歌謡「母あればこそ」を熱唱した。この模様は You-tube にも動画で掲載⇒柴田隆昭か赤レンガ館のコンサートの一部で検索するとヒットする⇒しているのでスマホやPCを立ち上げて是非ご覧頂きたい。

昭和の抒情を歌う

朋友 柴田隆昭君の草刈功労賞受賞を記念して

日 時 令和5年7月16日(日)
午後2時開演

ところ 赤レンガ館(旧岩手銀行大ホール)

チケット 1,000円(当日会場でご購入できます)

お問合せ 居酒屋「どんぼん」TEL090-1397-8665
酒屋「平興商店」TEL019-622-2753

【出演者】

森田純司(テノール)
平井良子(ピアノ) 松見雅子(ヴァイオリン)
手話と歌(大曲手話サークル) 伊藤ハ重子(ナレーション)

【演奏曲】

白いブランコ、真夜中のギター、白鳥の歌、山の煙、あざみの歌、長崎の鐘、この道、夏の思い出、落葉松、初恋、ふるさとの空、愛のあいさつ、「タイスの」瞑想曲、愛の悲しみ…他

【出演者・プロフィール】

□森田純司(テノール)
秋田県美郷町出身 築地利三郎氏に師事、後に慶福(あいはら)知昭氏の指導を受けるイタリアオペラ・歌曲が主だったが、現在は日本の歌をライブワークにしている2005年東京上野の「奏楽堂」で啄木コンサートを開催

□平井良子(ピアノ)
桐朋学園大学卒業 マスターズプレイヤーズ国際音楽コンクール第4位
如月の会・スペースメモリー・もりおかセンチュリータワーのピアノ伴奏者

□松見雅子(ヴァイオリン)
武蔵野音楽大学音楽科(ヴァイオリン)卒業 盛岡にて「松見ヴァイオリン教室」主宰リサイタル5回開催

主催 昭和の歌を聴く会
代表 後藤ゆり子

後援 盛岡市、盛岡市教育委員会

昭和の抒情を歌う 【プログラム】

令和5年7月16日【日曜日】14時開演

一部・フォークソングと 歌謡曲

①白いブランコ ②真夜中のギター ③山の煙
④あざみの歌 ⑤白鳥の歌 ⑥長崎の鐘

二部・ヴァイオリンと手話ソング

ヴァイオリン ソロ 【松見雅子】

①愛のあいさつ ②タイスの瞑想曲 ③愛の悲しみ
【エルガー】 【マスナー】 【クライスラー】

手話ソング 【大曲・手話サークル】

① 白い花の咲く頃 ② 手のひらを太陽に

～10分間休憩～

三部・歌い継ぎたい日本の名曲

①この道 ②かんびょう ③夏の思い出
④落葉松 ⑤ふるさとの空 ⑥たはむれに

ふるさと 【皆さまと一緒に】

「昭和の抒情を歌う」チラシ(左)とプログラム(右)

令和5年年表

1/17	令和4年度第3回理事会事前打ち合わせ 「きたかみ」69号第3回編集委員会 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・木村理事・柳橋理事 理工学部3号棟会議室
1/20	電気電子工学専門研修 「Beyond 5G/6Gにおける同期の役割とは？」 日本電気株式会社 システムプラットフォーム研究所 高橋正行 氏
1/21	令和4年度第3回理事会 エスポワールいわて3階 岩手の間 令和4年度事業について 12人
1/21	盛岡支部主催 新年食事会 エスポワールいわて3階 13人
1/24-25	令和5年度大学院総合科学研究科理工学専攻第2期入学者選抜試験《令和5年4月入学》
1/26	令和5年度大学院理工学研究科博士課程第2期入学者選抜試験《令和5年4月入学》
1/27	電気電子工学専門研修 「再生エネルギーの将来」(株)岡山建設 岡山信広 氏, 齋藤英明 氏 「青森県における風力発電の現状」 青森風力開発(株) 松橋和也 氏
2/3	入学願書受付締切. システム創成工学科電気電子通信コース：前期 1.0倍, 後期 3.2倍, 同知能・メディア情報コース：前期 1.6倍, 後期 3.9倍
2/7	きたかみ 69号校了
2/9	大学院理工学研究科(博士課程) システム創成工学専攻知能情報工学分野博士論文公聴会
2/16	大学院工学研究科(博士課程) 電気電子・情報システム工学専攻博士論文公聴会
2/17	大学院理工学研究科(博士課程) システム創成工学専攻電気電子通信工学分野博士論文公聴会
2/17	知能・メディア情報コース 卒業研究発表会
2/20	大学院総合科学研究科理工学専攻知能情報コース 修士論文審査発表会
2/20	きたかみ 69号校了 69号印刷終了 搬入
2/25	令和5年度理工学部 一般選抜個別学力検査 前期日程
3/1	きたかみ 69号発行 5400部
3/12	令和5年度理工学部 一般選抜個別学力検査 後期日程
3/23	岩手大学学位記授与式 理工学部システム創成工学科卒業生：電気電子通信コース 54名, 知能・メディア情報コース 56名 +1名 (早期卒業) 工学部電気電子・情報システム工学科卒業生：情報システム工学コース 1名 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程修了生：電気電子通信コース 40名, 知能情報コース 18名 大学院理工学研究科システム創成工学専攻博士課程修了生：電気電子通信工学分野 1名, 知能情報工学分野 1名 大学院工学研究科博士課程修了生：電気電子・情報システム工学専攻 1名
3/31	知能・メディア情報コース 西山清 教授 定年退職
4/1	堀田克哉氏を知能・メディア情報コース助教として採用
4/7	岩手大学入学式 理工学部システム創成工学科入学生：電気電子通信コース 59名 (うち地域創生特別プログラムものづくり系 1名), 同知能・メディア情報コース 59名 (うち地域創生特別プログラムものづくり系 2名) 3年次編入学生：電気電子通信コース 3名, 知能・メディア情報コース 2名 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生：電気電子通信コース 37名, 知能情報コース 19名 大学院理工学研究科システム創成工学専攻博士課程入学生：電気電子通信工学分野 1名, 知能情報工学分野 1名
4/20	80周年記念事業打ち合わせ三役会 久保田会長・長田副会長・立花副会長・柏葉相談役・木村理事・高橋理事・柳橋副会長 理工学部3号棟会議室
4/27	電気電子工学専門研修 「火力発電の役割と取り組み」 東北電力(株) 柳谷伸 氏, 伊勢慶一 氏
5/11	電気電子工学専門研修 「モバイル通信 6G への取り組みについて」(株)NTT ドコモ 鈴木恭宜 氏
5/11	80周年記念事業打ち合わせ三役会 久保田会長・長田副会長・立花副会長・柏葉相談役・木村理事・高橋理事・柳橋副会長 理工学部3号棟会議室
5/14	80周年記念事業仙台での打ち合わせ・会場下見 仙台ガーデンパレス 久保田会長・立花副会長・高橋理事・仙台支部役員
5/15-19	理工学部前期授業一般公開
5/18	電気電子工学専門研修 「半導体基礎講座 ～半導体産業の拡大とロジック・メモリ技術動向～」キオクシア岩手(株) 神垣哲也 氏
5/22	令和4年度岩手大学電気電子情報科会計監査 大坊真洋会計監査・佐々木眞嗣会計監査・久保田会長・柳橋副会長 岩手大学理工学部3号棟会議室
5/23	令和5年度第1回理事会事前打ち合わせ・80周年事業打ち合わせ 久保田会長・長田副会長・立花副会長・柏葉相談役・木村理事・高橋理事・柳橋副会長 理工学部3号棟会議室
5/25	電気電子工学専門研修 「ムーニー型アクチュエータを用いた2軸共振マイクロステージの開発」 リコーインダストリアルソリューションズ(株) 藤村康浩 氏
5/27	盛岡・つなぎ間ロードレース大会 (岩手大学学生, 教職員参加)
5/27	令和5年度第1回理事会・80周年事業第6回実行委員会 15人 盛岡市エスポワールいわて特別室
6/1	電気電子工学専門研修 「車載向け半導体製造における生産技術エンジニアの役割」(株)デンソー岩手 木川雅之 氏
6/15	電気電子工学専門研修 「継続可能な社会に向けて」元竹中工務店技術研究所, 岩手大学客員教授 山崎慶太 氏

6/15	電気電子工学専門研修 「つなぐ力」で創れ、未来の“あたりまえ”を。」 エクシオグループ(株) 山本晃大氏
6/17	令和5年度岩手大学電気電子情報科会総会 54人 仙台 ガーデンパレス 令和4年度事業報告・決算報告・監査報告、令和5年度事業計画・予算、80周年記念事業について
6/17	岩手大学電気電子情報科会創立80周年記念式典及び祝賀会 56人 仙台ガーデンパレス 草刈功労特別賞 柏葉安兵衛氏、草刈功労賞 旗福寛氏・齊藤健氏、柴田隆昭氏
6/17	令和5年度仙台支部総会 仙台ガーデンパレス
6/29	電気電子工学専門研修 「イメージセンサーの進化」ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) 皿井孝明氏
7/3	令和6年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)推薦入学者選抜試験《令和6年4月入学》
7/6	電気電子工学専門研修 「人間社会の根源とイノベーション ～ITは社会に何をもたらすのか～」 国際ソフトウェア(株) 香月宏氏
7/13	電気電子工学専門研修 「セラミックコンデンサの市場トレンドおよび製造プロセス&TDKの技術について」 TDK エレクトロニクスファクトリーズ(株) 堀川昌寛氏, 佐藤優輝氏, 佐藤有子氏
7/20	電気電子工学専門研修 「わが国のエネルギー政策と再生可能エネルギー」 「岡山建設と風力発電」 (株)岡山建設 岡山信広氏, 齋藤英明氏
7/27	電気電子工学専門研修 「風力発電の建設(睦栄風力発電所の建設)」 「風力発電所の運転管理」 (株)アウラエンジニアリング&サービス 岡山信広氏, 奈良橋一範氏
8/5	知能・メディア情報コース スポーツ大会
8/8	岩手大学オープンキャンパス
8/21-22	令和5年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《令和5年10月入学》 令和6年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《令和6年4月入学》 令和5年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和5年10月入学》 令和6年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和6年4月入学》
8/26	令和5年度第2回理事会 エスポワールいわて 13人 令和5年度事業計画について
9/上	令和6年度理工学部総合型選抜I入学試験(第1次書類選考)
9/25	令和5年度岩手大学修了式・卒業式(農業教育資料館) 理工学部卒業生:電気電子通信コース1名 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程修了生:知能情報コース1名
10/1	岩手大学入学式(令和5年度10月入学者) 大学院総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生:電気電子通信コースなし, 知能情報コース1名 大学院理工学研究科システム工学専攻博士課程入学生:電気電子通信工学分野なし, 知能情報工学分野なし
10/6	令和6年度理工学部総合型選抜I入学試験(第2次選考)
10/7	令和6年度理工学部総合型選抜II入学試験(第1次選考)
10/14	令和5年度東京支部大会 新宿サンパークビル「日本料理三平」本館7階大ホール
10/21-22	第74回岩手大学不來方祭
10/27	電気電子工学専門研修 「WADOのビジョンとロボット開発」 和同産業(株) 三國卓郎氏
11/6-10	理工学部後期授業一般公開
11/10	電気電子工学専門研修 「医療機器エンジニアと大学教員の経験から学生の皆さんに伝えたいこと」 東京都立大学システムデザイン研究科電子情報システム工学域 八木一平氏
11/13	きたかみ70号第1回編集委員会 岩手大理工学部3号棟会議室 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・ 宮手盛岡支部長・木村理事・高橋理事・柳橋副会長
11/17	電気電子工学専門研修 「DXで創造する 岩手のものづくり企業の未来と競争力」 (株)アイオー精密 鬼柳一宏氏, 製造本部ものづくり連携センター 菱川新喜氏
11/20	大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)知能情報コース1年次中間発表会(ポスター発表形式)
11/21	令和6年度岩手大学理工学部学校推薦型選抜入学試験
11/24	電気電子工学専門研修 「将来無線ネットワークの革新に向けた取り組み」NTTアクセスサービスシステム研究所 鷹取泰司氏
11/30	大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)知能情報コース修士論文予備審査会《令和6年3月修了予定者》(分野別に実施)
12/1	電気電子工学専門研修 「電機業界の概要と最新動向」日本電機工業会 栗田智久氏
12/4	大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)知能情報コース修士論文予備審査会《令和6年3月修了予定者》(分野別に実施)
12/15	電気電子工学専門研修 「バイタルセンシングの最新技術」(株)フォスメガ 上田智章氏
12/16	令和5年度第3回情報処理学会東北支部研究会(於 岩手大学)
12/16	知能・メディア情報コース 冬期スポーツ大会
12/26	きたかみ70号第2回編集委員会及び新年理事会及び新年会の件、打ち合わせ 岩手大理工学部3号棟会議室 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・木村理事・柳橋副会長

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース（以下、電気情報系コースという）及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース（以下、岩手大学大学院電気情報系コースという）の傘下に集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。

- 第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

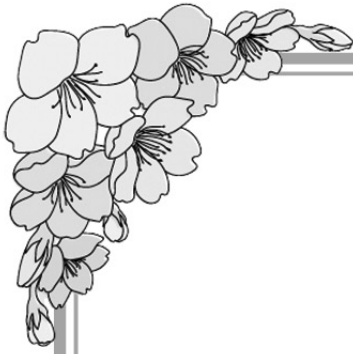
- 第16条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名 | 正会員より選出する。 |
| 幹 事 | | 正会員より理事会で推薦し
会長が委嘱する。 |
| 顧 問 | 若干名 | 特別会員より会長がこれを
委嘱する。 |
| 相談役 | | 元会長は終身相談役として
委嘱するものとする。 |
- 第17条 各役員の任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。
- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。
- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行う。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。
- (昭和17年1月1日制定) (平成4年度総会一部改正)
(昭和25年度総会一部改正) (平成11年度総会一部改正)
(昭和37年度総会一部改正) (平成12年度総会一部改正)
(昭和40年度総会一部改正) (平成15年度総会一部改正)
(昭和41年度総会一部改正) (平成20年度総会一部改正)
(昭和46年度総会一部改正) (平成21年度総会一部改定)
(昭和50年度総会一部改正) (平成22年度総会一部改定)
(昭和51年度総会一部改正) (平成27年度総会一部改定)
(昭和56年度総会一部改正) (平成28年度総会一部改定)



「会費」納入のお願い

岩手大学電気電子情報科会

会長 久保田 賢二

日頃より会員の皆様には科会事業に際し多大のご協力とご支援を賜り、ありがとうございます。

このたび、平成26年3月以前にご卒業の皆様に対して「会費」の納入をお願いいたします。

このご依頼は、平成15年に改定された会則第10条の「卒業後10年毎に会費10,000円を納入する」という規定に基づくものです。誠に恐縮に存じますが、趣旨をご理解の上、納入して下さいますよう宜しくお願い致します。

記

1. 納入対象者：平成26年3月以前に卒業された方
2. 金 額：10,000円
3. 納入方法：郵便振替（同封の赤い振込用紙をご利用ください。）
振込用紙に卒業年・学科・氏名・電話番号のご記入をお願いいたします。
郵便振込口座番号 02260-9-64561
（加入者名：岩手大学電気電子情報科会）
（郵便局の振込票をもって領収書とさせていただきますのでご了承ください）
4. 納入期限：できるだけ速やかに納入いただければ幸いです。
5. 補 足：会費は後払いであり、過去10年分の会費を納入いただくものです。



「きたかみ」70号トピックス

延び延びになり、やっと開催できた80周年記念祝賀会のスナップ写真です。



編集後記

「きたかみ」70号80周年特集号をお届けいたします。

例年なら、外の雪景色を眺めながら編集後記を書くのですが、この先の不安を抱かせるほど雪のない2月初めの盛岡です。

今号は80周年特集号ですが、追悼の特集にもなっていました。4人の方々の在りし日のお姿を偲びながら記しています。

盛りだくさんの内容で原稿を整えるのが予定通り進まず、阿部謄写堂さんや一祐会事務局にご心配をおかけしてしまいました。

草刈功労賞受賞者の簇福先生は体調がすぐれず、原稿が間に合いませんでしたので次号に掲載をお願いしました。

編集委員一同、頑張ったつもりですが、至らぬ点が多々あるかと思います。どうぞ80周年に免じてご容赦いただければ有難いです。

編集委員 久保田 賢 二 (会長：昭和42年電気卒)
柏 葉 安兵衛 (相談役：昭和38年電気卒)
宮 手 敏 雄 (盛岡支部長：昭和44年電気卒)
立 花 龍 一 (副会長：昭和61年情報卒)
木 村 彰 男 (事務局：平成3年情報卒)
高 橋 克 幸 (事務局：平成21年電電修)
柳 橋 好 子 (副会長・事務局：昭和45年電子卒)

きたかみ 第70号

発行日 令和6年3月1日
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号
岩手大学理工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎ 019-621-6460
印刷所 (株)阿部謄写堂
盛岡市本町通2丁目8番37号
☎ 019-623-2361

令和6年度総会並びに懇親会開催のご案内

令和6年度岩手大学電気電子情報科会総会を下記の通り開催いたします。
お忙しいとは存じますが会員各位の多数の出席をお待ちしております。
ご出席の方はとじ込みのはがきで1か月前の5月15日までにご連絡ください。
また、住所・勤務先等の変更連絡にもとじ込みはがきをご利用ください。

記

日 時：令和6年6月15日（土）

受付	午後1時00分
盛岡支部総会	午後1時30分～2時00分
総会	午後2時00分～3時00分
講演会	午後3時00分～4時00分
写真撮影	午後4時00分～4時30分
懇親会	午後4時30分～6時30分

場 所：エスポワールいわて

盛岡市中央通り1丁目1-38 電話 019-623-6251

議 案：1. 令和5年度事業報告、決算・監査報告承認
2. 令和6年度事業計画案、予算案審議
3. その他

講 演 会：演題「自治体DXの針路（仮題）」

講師 佐々木 眞嗣（株式会社アイシーエス 行政システム事業本部）

懇親会会費：6,000円（懇親会席上で昨年秋・今年春に叙勲された方をご紹介します、祝意を表します。
叙勲された方をご存じの方はお知らせください。）

連 絡 先：総会出欠や叙勲された方のお知らせ等、以下の連絡用フォーム、会誌「きたかみ」に
綴込みのハガキ、下記事務局宛電話、FAX、E-mail等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会 E-mail：iwate.ddj.kakai@gmail.com

岩手大学電気電子情報科会事務局（岩手大学理工学部内）

電気電子通信コース担当 高橋 克幸 TEL 019-621-6460

知能・メディア情報コース担当 木村 彰男 TEL・FAX 019-621-6488

庶務会計・学外担当 柳橋 好子 TEL・FAX 019-686-2253